

日本地質学会 *News*

Vol.28 No.7 July 2025



一般社団法人日本地質学会

The Geological Society of Japan

理 事

任期：2024年6月8日から2026年総会

会長（代表理事） 山路 敦（京都大学）

副会長 杉田律子（科学警察研究所）
星 博幸（愛知教育大学）

常務理事 亀高正男（大日本ダイヤモンドコンサルタント（株））
副常務理事 内野隆之（産業技術総合研究所）
執行理事 岩井雅夫（高知大学）

内尾優子（東京国立博物館）
大坪 誠（産業技術総合研究所）
尾上哲治（九州大学）
加藤猛士（川崎地質（株））
小宮 剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森 樹（東北大学）
細矢卓志（中央開発（株））
松田達生（工学気象研究所）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）
矢部 淳（国立科学博物館）

理 事 青矢睦月（徳島大学）
天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）
磯崎行雄（東京大学）
大友幸子（山形大学）
岡田 誠（茨城大学）

笠間友博（箱根町役場）
加藤 潔（駒澤大学）
香取拓馬（フォッサマグナミュージアム）
金丸龍夫（日本大学）
神谷奈々（京都大学）
川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
清川昌一（九州大学）
桑野太輔（京都大学）
小松原純子（産業技術総合研究所）
齋藤 眞（産業技術総合研究所）
佐々木和彦（佐々木技術士事務所）
澤 燦道（東北大学）
沢田 健（北海道大学）
沢田 輝（富山大学）
下岡和也（関西学院大学）
菅沼悠介（国立極地研究所）
高野 修（石油資源開発（株））
田村嘉之（千葉県環境財団）
中澤 努（産業技術総合研究所）
西 弘嗣（福井県立大学）
野田 篤（産業技術総合研究所）
広瀬 亘（北海道立総合研究機構）
松田博貴（熊本大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山本啓司（鹿児島大学）
和田穰隆（奈良教育大学）

監 事

任期：2024年6月8日から2028年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

日本地質学会 *News*

Vol.28 No.7 July 2025

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

表紙紹介……1

第16回惑星地球フォトコンテスト：ジオパーク賞

エメラルドブルーの波蝕甌穴群（伊藤裕也）

公募……2

神戸大学大学院理学研究科教員（助教）の公募/東京学芸大学教育学部自然科学系テニュアトラック教員公募

各賞・研究助成……2

第47（令和7年度）沖縄研究奨励賞推薦応募/第66回東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

案内……3

産総研地質調査総合センター鉱物肉眼鑑定研修&地質調査研修

紹介：漫画・アニメ「瑠璃の宝石」を応援しよう！（高清水康博・金子 稔）……3

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！……4

天草市立御所浦恐竜の島博物館（黒須弘美）

学協会・研究会報告……6

万国地質学会の報告と国際地質科学連合の近況について（川村喜一郎）

国際地質科学連合（IUGS）のGeo-collectionsの募集について……7

2025年地質の日報告……8

街中ジオ散歩in Chiba「身近な地形・地質から探る稲毛海岸の歴史」（細矢卓志・橋本智雄・矢部 淳）

支部コーナー……9

関東支部：学生・若手会員向け「地質調査の基礎講座」城ヶ島巡検実施報告

中部支部：中部支部2025年年会（静岡）報告

CALENDAR……12

一般社団法人2025年度総会議事録……13

2025年度日本地質学会各賞授賞理由/2025年度永年会員（50年）顕彰

入会申込書……34

巻末 会費口座振替依頼書

表紙紹介

第16回惑星地球フォトコンテスト：ジオパーク賞 エメラルドブルーの波蝕甌穴群

写真：伊藤裕也（福井県）

撮影場所：佐渡ヶ島 平根崎

講評、地質解説は学会ホームページをご参照ください。
<https://geosociety.jp/faq/content0009.html>

印刷・製本：日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



神戸大学大学院理学研究科教員（助教）の公募

職名・募集人員：助教（テニュアトラック）1名

所属：神戸大学大学院理学研究科 惑星学専攻 基礎惑星学講座

参考：専攻ホームページ <http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>

職務内容：地質学教育研究分野に所属し、惑星学専攻・学科において地質学を主とした教育・研究を行う（野外実習を含む）。全学共通教育も担当する。

着任・任期：2026年4月1日以降のできるだけ早い時期に着任し、そこから任期は5年間。ただし着任から4年を経過する日までに、「神戸大学テニュアトラック制に関する規則」に基づく業績評価を行い、一定の基準を満たすと評価された場合、任期の定めのない助教に転換される。

応募資格：

- (1) 博士の学位を有する（採用時まで取得見込みを含む）。
- (2) 業務遂行に支障のないレベルの日本語の能力を有する。

公募の締切：2025年9月30日（火）

問い合わせ先：惑星学専攻長 金子克哉（E-mail: apply2025-inq@people.kobe-u.ac.jp）
公募方法等公募の詳細は、下記HPよりご参照ください。

<http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>

東京学芸大学教育学部自然科学系 テニュアトラック教員公募

職名及び人数：講師 1名

所属組織：

研究組織：自然科学系広域自然科学講座
環境科学分野

教育組織：理科（地学）教室

※改組等により、所属する研究組織若しくは教育組織が変更される場合がある。

専門領域：固体地球科学（岩石学、鉱物学、地球物質科学、地球化学などに関連する分野）

職務内容：

（1）学部生並びに大学院生の教育・研究指導

主な担当科目：【学部】理科コース入門セミ

ナー、地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ、地学実験、地球科学B、地球科学野外実習、地球科学実験、地学特別演習A、地学特別演習B、卒業研究【大学院】サイエンスフロンティア特論、理科の実践演習Ⅱ、理科の内容構成開発と実践B、理科の高度研究開発法

（2）固体地球科学に関する研究

（3）教員養成及び大学運営に関する業務

応募資格

（1）博士の学位又はそれと同等の研究業績を有すること。（2）授業及び職務遂行に支障のない日本語能力を有すること。（3）本学が教員養成系大学であることを理解し、関連業務に積極的に従事できること。（4）学部・大学院における地学・環境科学関係の講義・野外実習並びに学生・院生の研究指導を担当できること。（5）理科（地学）教室・環境科学分野と協働して、学内の各種プロジェクトに参画できること。（6）担当科目について、教職課程認定上必要とされる教育又は研究上の業績を有していること。（7）小学校教諭、中学校教諭（理科）及び高等学校教諭（理科）のいずれかの教員免許を有することが望ましい。

採用予定日：令和8年4月1日

テニュアトラック期間：5年（令和13年3月31日まで）※ただし、テニュアの付与に係る審査の結果、テニュアトラック期間を延長することが認められた場合は、3年を限度として延長することができる。

提出期限：令和7年9月30日（火）必着

問い合わせ先

東京学芸大学自然科学系 環境科学分野主任
佐藤公法メールアドレス：sato-k@u-gakugei.ac.jp

件名には必ず「教員公募について」と記入すること。

応募書類等その他公募に関する情報は、下記を参照してください。

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~jinjika/shokuin-bosyu/>

各賞・ 研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

第47（令和7年度） 沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的として、昭和54年に創設されました。本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学、人文科学、社会科学）を行っている新進研究者（又はグルー

プ）の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。応募資格は、学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下（2024年7月15日現在）の方で、出身地及び国籍は問いません。

応募資格：

学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下の者で、2025年7月15日現在で50歳以下の者

応募方法：

- (1)「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」
- (2) 研究成果物（論文3点以内、著書がある場合は1冊）
- (3) 研究成果物の要旨（それぞれA4判横書き各1,000字以内、要旨は日本語とする）
- (4) 研究業績リスト（著書、論文等30点以内、A4横書き）

応募書類の提出先：

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町17-6 201

公益財団法人沖縄協会「沖縄研究奨励賞」係
応募締切：2025年9月30日（当日消印まで有効）（学会締切9月4日）

詳しくは、<http://www.okinawakyoukai.jp/>

第66回東レ科学技術賞および 東レ科学技術研究助成の 候補者推薦

1. 東レ科学技術賞

候補者の対象：（1）学術上の業績が顕著な方（2）学術上重要な発見をした方（3）効果が大きい重要な発明をした方（4）技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献した方 年齢は問いません。（注）この推薦を受けた候補者は次年度も選考の対象となります。

賞：1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円（2件以内）

締切：令和7年10月10日（金）必着（学会締切：9月12日）

2. 東レ科学技術研究助成

候補者の対象：国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽の研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45歳以下もしくは博士学位取得後10年以内）。本助成が重要かつ中心的な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。申請の基となった研究が海外で行われていても差し支えありません。

助成金額：総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度とします。

締切：令和7年10月10日（金）必着（学会締切：9月12日）

*推薦をご希望の方は、上記学会締切までに

執行理事会宛に応募書類をお送り下さい。
*各推薦書要旨は、ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.toray-sf.or.jp>

問い合わせ先

公益財団法人東レ科学振興会

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町3丁目3番16号（日本橋室町ビル）

Tel：(03) 6262-1655 Fax：(03) 6262-1901

<http://www.toray-sf.or.jp>



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

産総研地質調査総合センター 鉱物肉眼鑑定研修&地質調査研修

■第8回 鉱物肉眼鑑定研修

日程：2025年10月1日（水）～3日（金）

場所：茨城県つくば市（産総研）

定員：4～5名（定員になり次第締切）

CPD：24単位

参加費：48口（1口1000円）の会費が必要です。

詳細 URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/koubutsu/8th.html>

■2025年度第1回追加 地質調査研修（未経験者向け）

日程：2025年10月6日（月）～10月10日（金）

場所：室内座学 茨城県つくば市（産総研）

野外研修 茨城県ひたちなか市、福島県双葉郡広野町いわき市周辺

定員：6名（定員になり次第締切）

CPD：42単位

参加費：84口（1口1000円）の会費が必要です。

詳細 URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2025-1-2.html>

■2025年度第2回 地質調査研修（初級／経験者向け）

日程：2025年10月27日（月）～10月31日（金）

場所：島根県出雲市長尾鼻周辺（小伊津海岸）

定員：6名（定員になり次第締切）

CPD：42単位

参加費：84口（1口1000円）の会費が必要です。

す。

詳細 URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2025-2.html>

■2025年度第3回 地質調査研修（中級／経験者向け）

日程：2025年11月16日（日）～11月22日（土）

場所：福岡県福岡市能古島

定員：6名（定員になり次第締切）

CPD：45単位

参加費：90口（1口1000円）の会費が必要です。

詳細 URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2025-3.html>

【お問い合わせ】

産総研 地質調査総合センター 研修事務局

E-mail：training-gsj-ml@aist.go.jp

漫画・アニメ「瑠璃の宝石」を応援しよう！

正会員 高清水康博・金子 稔

〔原作〕 渋谷 圭一郎著、KADOKAWAハルタコミックス「瑠璃の宝石」1-6巻、B 6 判、定価：本体780円＋税

漫画家で鉱物学を修めた渋谷圭一郎さんが、鉱物をテーマとした「瑠璃の宝石」を連載しています。2025年7月6日からはアニメ放送も開始いたしました。主人公で高校生の谷川瑠璃（たにがわり）と大学院生の荒砥風（あらと なぎ）が鉱物採集に魅せられ自然へ飛び出していく物語です。日本地質学会会員になじみの岩石ハンマー、タガネや鉱物ルーペなどジオロジストの必需品が登場し、フィールドサイエンスの醍醐味を感じさせてくれる興味深い作品となっています。キラキラと光る鉱物の魅力が質の高い作画で丁寧に表現されており、美しい一言につきます。当然ですが結晶の形状や質感の描写も科学的に正確です。ストーリーは様々な鉱物採集を中心に進みますが、岩石の種類とでき方、火山の仕組み、流れる水のはたらき、プレート

テクトニクス、および自然保護と鉱物採集マナーまで、幅広く地球科学領域のテーマが扱われています。そのため会員の皆様のみならず、お近くの一般の方々、そして未来のジオロジストや自然科学を志す子ども達にも是非、ご紹介いただけますと幸いです。

「瑠璃の宝石」の放送、配信情報はTVアニメ公式サイト（URL1）をご確認下さい。地上波、BSおよびインターネット配信で見られます。また放送開始に先行して「TVアニメ「瑠璃の宝石」がもっと楽しめる特別番組」がアニプレックスチャンネルから公開されています（URL2）。第1回目は『日本のあちこちって鉱！』で、出演されている声優さんらと専門の鉱物学研究者による楽しい鉱物学の授業でした。

アニメの原作は2019年より『ハルタ』（KADOKAWA）にて連載中の『瑠璃の宝石』で現在第6巻まで刊行されています。こちらも是非、お読みいただけますとより面白

いと思います。また、渋谷さんは「大科学少女」という高校の科学部を題材にした漫画作品も発表されています。科学系の部活動を題材にした漫画であり、大変珍しい分野を扱っています。今後の作品も大いに期待されます。

改めて会員の皆様におかれましては是非、「瑠璃の宝石」の魅力を周辺にお声がけ頂きますと幸いです。若いの方々、一般の方々が地質学に対する興味・関心を持っていただける入り口になる可能性があります。皆さん、是非、漫画・アニメ「瑠璃の宝石」を応援しましょう！どうぞよろしくお願いいたします。

<引用>

URL1：<https://rurinohouseki.com/>

URL2：<https://www.youtube.com/watch?v=VuFUsuCzqhw>



博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（42）
天草市立御所浦恐竜の島博物館

天草 1 億年の記録に触れる博物館

天草市立御所浦恐竜の島博物館 学芸員 黒須弘美

施設の概要

1997年に天草地域発の恐竜化石が発見されたことを切っ掛けに、同年7月に化石の発見地である天草郡御所浦町（現・天草市御所浦町）の御所浦島に開館したのが、博物館の前身となる「御所浦白亜紀資料館」でした。当時は資料館の建物がなく、御所浦島開発総合センター（後の御所浦地区コミュニティセンター）の一角を借りる形から展示が始まり、最終的には天草地域で発見された化石を中心に約1,000点を展示していました。開館後、2006年の市町村合併にともなう天草市の誕生を経て、建物の老朽化なども進んでいたことから建物建て替えを含む全面リニューアルを行い、2024年3月20日に「天草市立御所浦恐竜の島博物館」として新たなスタートを切ることになりました。御所浦白亜紀資料館時代と比べて常設展示室が拡充され、また天井も高く取ることができるようになったため、それまでは不可能であった大きな骨格の常設展示も可能になり、標本の展示数も増加しました。

御所浦恐竜の島博物館の常設展示は、「プロローグ：地球誕生から恐竜時代へ」「白亜紀の天草」「研究を支える世界の化石」「新生代の天草」「現代の天草」と5つのエリアからなり、地球の始まりから現代に至るまでの大地の記録を標本と共に辿ることが出来ます。館内では、御所浦白亜紀資料館から引き続き、天草地域で発見された化石を中心に、世界で発見された恐竜の化石の全身骨格、岩石や現生生物に関する標本なども含め、約2,000点の標本を展示しています。恐竜からイルカまで、天草一億年の歴史を「見て」

「学び」「楽しむ」ことができる博物館です。

また、リニューアルオープンとあわせて、アメリカ・モンタナ州にあるカーター郡立博物館と姉妹館提携を結びました。カーター郡立博物館と御所浦恐竜の島博物館は、2015年に設立された熊本県内の自然史系博物館とモンタナ州の自然史系博物館からなる熊本モンタナ自然科学館協議会が縁で交流が始まりましたが、今後も学術研究や展示・教育普及プログラムなどお互いの博物館の発展を目指して協力を行っていきます。

御所浦町について

御所浦恐竜の島博物館がある熊本県の天草市御所浦町は、熊本県内の南東に位置しており、約20の島々からなる離島で、熊本県で唯一全町が離島の町です。ゆりかごの海とも言われる穏やかな内海・不知火海（八代海）に位置しており、船が日常の足として天草上島や水俣等の港等へ人々を運んでいます。御所浦は古くから漁業が盛んで、現在も多くの島民が漁業を生業としています。山間部や沿岸の斜面では、温暖な気候で柑橘類の栽培をする姿も見ることができます。その他、「恐竜の島」「化石の島」としても知られており、天草地域で初めて恐竜化石が発見された場所というだけでなく、島の中ではあちこちで化石や地層を見ることができ、見学地も点在しています。そのため、島をまるごと博物館として楽しむことができます。2007年には日本の地質百選に選定され、2016年には日本地質学会が選定した県の石のうち、熊本県の化石として「白亜紀恐竜化石群」が認定されました。

info

天草市立御所浦恐竜の島博物館

〒866-0313 熊本県天草市御所浦町御所浦4310-5

電話：0969-67-2325

開館時間：午前9時から午後5時（入館は午後4時半まで）

<https://goshouramuseum.jp/>

この「白亜紀恐竜化石群」には御所浦をはじめとする天草地域の化石が含まれています。

展示について

御所浦恐竜の島博物館の展示は、主に天草地域にスポットを当て、天草地域の大地の歴史について標本や写真、映像等と共に解説されています。その中から特にお勧めの展示を紹介します。

天草地域の化石（図2）

御所浦恐竜の島博物館のメインの展示として、天草地域で発見された様々な化石の実物を600点以上展示しています。天草地域には、恐竜時代の地層である御所浦層群や姫浦層群（共に中生代白亜紀）、哺乳類の時代の地層である赤崎層（新生代古第三紀）等の地層が分布しており、恐竜化石だけでなく、貝やアンモナイト、甲殻類、魚類、哺乳類など、発見・展示されている化石は多岐にわたります。中には、博物館が調査で発見したものだけでなく、来館者に寄贈いただいた化石たちも多数を占めています。御所浦恐竜の島博物館のコレクションは、たくさんの方々の発見によって作られているのです。これらの化石の中には、博物館から徒歩5分程のところにある「トリゴニア砂岩化石採集場」で化石採集体験参加者が発見したものも数多く含まれています（図3）。化石採集体験は1年中行うことができますので、博物館に来館された際は合わせてお楽しみいただけます。また、博物館のリニューアルに伴い、化石採集場にスタッフが常駐するようになりましたため、化石採集体験が初めてという方も安心して体験いただけるようになりました。この化石採集場を含め、発見された化石は、化石クリーニングという岩石を削り化石を取り出す作業を経て研究・展示が行われることとなりますが、博物館内では化石クリーニング室という化石のクリーニングを専門で行う部屋も備えており、来館者にガラス越しに作業を見学していただくことが出来るようになっています。こ



図1 常設展示「研究を支える世界の化石」



図2 常設展示「白亜紀の天草」



図3 博物館近くのトリゴニア砂岩化石採集場

の化石クリーニング作業を見学できるような形の取り組みは開館以降20年以上に渡り行っており、御所浦恐竜の島博物館でも継続して見学いただけます。

日本最大級の獣脚類の歯 (図4)

1997年、御所浦島ではさまざまな恐竜化石が発見されました。そのうちのひとつが、日本最大級の獣脚類の歯化石です。この化石は御所浦島の南方にある「白亜紀の壁」と呼ばれる場所で発見されたものです。「白亜紀の壁」は、高さが200m以上もあり、約1億年前からの白亜紀の地層（御所浦層群）を見ることができます。この場所は天草地域で最も恐竜化石が発見されている場所でもあります。歯化石の大きさは約6.4cmにもなりますが、発見当時に既に先端が欠けてしまっていました。もし全て残っていたとしたら推定約10cmにもなる大きなものだと考えられています。歯化石は全長10mを越える大型獣脚類のものだと考えられており、博物館入口で来館者を迎えてくれる恐竜の復元模型は、この歯の持ち主の恐竜をイメージして作られたものです。

ティラノサウルス科の下顎化石 (図5)

これまで日本では、ティラノサウルス科の化石は歯化石が2地域（長崎県長崎市、熊本県天草市）からのみ発見されていました。しかし、2014年の天草市立御所浦恐竜の島博物館（当時の天草市立御所浦白亜紀資料館）と福井県立恐竜博物館の共同調査において、天草地域の天草郡苓北町から歯を含む下顎化石が発見されました。恐竜の下顎骨は複数の骨から構成されますが、今回発見された化石は下顎骨の前半部にあたり、歯を取めるための歯槽という部位を含む「歯骨」と呼ばれる部分が



図4 御所浦町で発見された日本最大級の獣脚類の歯

主になります。化石は、欠損部分のある左右の歯骨が重なり合って保存されています。日本の獣脚類の顎化石は数例のみで、獣脚類の顎化石としても国内最大のものになります。この化石の実物は現在博物館内に展示されており、間近でご覧いただくことができます。

天草を囲む海 (図6)

御所浦恐竜の島博物館のある御所浦島を含む天草地域は、大小約120の島々からなり、周囲を3つの海・「東シナ海」「有明海（島原湾）」「不知火海（八代海）」で囲われています。館内の「現代の天草」では、それぞれが異なる特徴を持ったこの海について、各海に生息する生き物たちの標本を交えて紹介をしています。展示物の中には、日本のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅰ類とされ近年では天草以外では生きた姿を見ることが難しいとされる貝・ヒメアカガイの標本もあり、必見の展示となっています。

地学関係の教育普及

地学に関するイベントとしては、小学生以上を対象に、毎年夏休み恒例となっている「化石セミナー」を開催しています（図7）。博物館の見学と野外での化石採集などを学芸員やスタッフ、講師と共に体験イベントです。2025年は夏休み中に日帰りで2回、秋には1泊2日の日程で催予定です。このイベントは、有識者を講師に迎え、普段いかな場所でも特別に化石採集や地層観察を行ったり、直接学芸員の解説を聞くことも出来る毎年人気のイベントとなっています。

その他、野外を巡るイベントとして、「島の自然ワークショップ」と題し、島の自然に触れるワークショップも開催しています。毎



図5 天草地域で発見されたティラノサウルス科の下顎骨化石

年テーマが異なり、2023年には「牧島と横浦島を巡る地層・化石クルージング」として、御所浦町内の島を船で周り地層や化石の観察を行いました。普段は見る機会が少ない野外観察地を巡る良い機会となったようです。いずれのイベントについても、開催の際は当館のホームページで募集を行っていますので、ぜひご確認ください。

また、古生物をテーマとした当館主催の絵画コンテスト「恐竜絵画コンテスト」も毎年開催しており、今年で27回目を迎えました。全国から数多くの応募者があり、夏休みには入賞者の作品を恐竜絵画コンテスト作品展と題し館内で展示を行っています。例年、4月頃に募集要項が開示され、6月頃が締め切りとなっています。コンテストに関する情報もホームページにて掲載しておりますので、ご興味がありましたらご確認ください。

その他にも、5月10日の地質の日にあわせて、毎年当館を含む熊本県内の自然史系博物館や地質に関する組織、団体などが一堂に会し「くまもとの大地」をテーマにイベントを開催しています。第17回となる2025年は御所浦恐竜の島博物館が会場となり、体験イベントや期間限定展示を行っています。このイベントや展示は、来館者に熊本の地質について触れていただくまたとない機会となりました。

おわりに

御所浦恐竜の島博物館は、天草地域唯一の自然史系博物館であり、化石をはじめ現生に至るまで天草の自然に関する標本をご覧いただける博物館となっています。お近くにお越しの際は、ぜひ御所浦島への船旅や御所浦恐竜の島博物館への来館もご検討ください。皆様のお越しをお待ちしております。



図6 常設展示「現代の天草」



図7 夏休み化石セミナーの様子



学協会・研究会報告

万国地質学会 (International Geological Congress, IGC) の報告と国際地質科学連合 (International Union of Geological Sciences, IUGS) の近況について

川村喜一郎 (国際地質科学連合, 海底ジオハザード・タスクグループ議長, 日本学術会議連携会員 (特任), 山口大学)

2024年8月25日-31日に韓国釜山のBEXCOコンベンションセンターにおいて、第37回万国地質学会が開催された。今回は世界121カ国から約7000名の地質学者が参加した。Daekyo Cheong議長を中心とした大会組織委員会で運営された。41テーマにおいて、6000件を超える発表があった。

我々のグループ (海底ジオハザード・タスクグループ, Task Group on Submarine Geohazards, TGSG) からは、8月27日に、2件のセッションを立ち上げた。

「Offshore renewable energy systems and submarine geohazards (Convener, Shinji Sassa, Yasukuni Okubo) (オーラル5件)」

「Our Tasks on Global Submarine Geohazard issue to our future earth (Convener, Kiichiro Kawamura, Char-Shine Liu) (オーラル10件, ポスター7件)」

また、同日18時からTGSG Business meetingを行い、Science topics on TGSGとして、TGSGの近況について、Kiichiro Kawamura, International

Consortium on Landslidesの近況としてShinji Sassa博士、ヨーロッパ海洋委員会の近況としてIFREMERのGiles Lericolais博士、研究発表としてフィリッピン大学のLeo Armada博士、中国海洋大学のYonggang Jia教授 (代理でCong Hu博士) らによる情報交換があった。また、優秀学生発表賞として、中国、台湾、日本から4名の学生を選出した (<https://iugs-tgsg.com/>)。

この万国地質学会では、役員改選が行われ、今までの会長John Ludden氏 (UK)、事務局長Stanley Finney氏 (USA)、会計Hiroshi Kitazato氏 (JAPAN) の体制から、会長Hassina Mouri氏 (South Africa)、事務局長Ludwig Stroink氏 (Germany)、会計David Cohen氏 (Australaria) の体制になった。また、次回2028年はカルガリーでの開催も決まった。

2025年3月には、新体制になって初めてのIUGS実行委員会 (Executive Committee) がバリで開催された。新会長はアラブ地域への歴訪について報告し、IUGSの一層の拡大を願っての行動と説明していた。そして、それに呼応するようにして、来年2026年4月28-29日に第一回目の「中東・北アフリカ科学会議」がローマで開催される。 (<https://www.ierek.com/events/mena-earth-science-congress-mesc#introduction>)。IUGSの後援の下、新会長は名誉議長として名を連ねている。会議議長のZakaria Hamimi教授 (Benha University) は、我々のタスクグループのメンバーであり、今後、緊密に連携していく予定である。

我々のグループの中間報告として、IUGSの機関誌「Episodes」から特集号「Submarine Geohazards and Their Risks」(Kawamura, Sassa, Okubo et al.)を出す予定である。このグループは、IUGSにおける日本がイニシアチブを取っている数少ない団体である。今後とも日本の顔として世界に情報を積極的に発信し続けていきたい。



2024年8月27日夜のTGSGビジネスミーティングにて。

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は、,,

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は、速やかに情報の更新をお願い致します。毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまうです。

情報の変更は、学会ホームページ「会員のページ」にログイン (ID:会員番号, 7桁の数字です) すると、ご自身で登録内容を更新することができます。もしくは学会事務局までご連絡ください。ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ：日本地質学会事務局 メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156



国際地質科学連合（IUGS）のGeo-collectionsの募集について

国際地質科学連合が進めているGeo-heritage（＝地質遺産）事業ではGeo-sites, Geo-stones, Geo-collectionsの3つの部局があり、前2者でそれぞれに候補地の選定などが進められてきました。この度、Geo-collectionsの最初の100コレクションを選ぶための公募が行われることになりました（募集期間は7/1-10/1）。

つきましては、みなさんからの積極的な応募をお願いいたします。

日本地質学会会長 山路 敦

▶Geo-heritageジオ・ヘリテージ（地質遺産）事業について

2022年10月28日にIUGSが設立60周年を記念して採択したズマイア宣言において、地球規模の地質遺産を保護・保存することが明確に示されました。その出発点として、私たちが「地質遺産」と理解するものを認識し定義するために始まったのがGeo-heritage事業です。本事業では、Geo-sites, Geo-stones, Geo-collectionsの3つ地質コレクション小委員会（SGC）が活動しています。

▶Geo-collectionsジオ・コレクションとは

歴史的に利用されてきた岩石や岩体、あるいはその産地や作成物を指定するGeo-stonesジオ・ストーンとは異なり、ジオ・コレクションには、博物館、大学、地質調査機関、その他の公的・私的組織に保管される標本を含みます。ジオ・コレクションは、微小スケールから惑星規模に至るさまざまな時空スケールで、地球の歴史を理解するための基盤であり、地球上の水と生命の起源、気候変動、環境問題、有害廃棄物の処分、グリーン技術等を含む新たな資源開発など、研究分野の重要な基盤となっています。したがって、ジオ・コレクションの価値と意義は、科学的、文化的、歴史的、教育的である可能性があります。最も本質的な「基盤」は「科学的価値」です。

○Geo-collectionsジオ・コレクションの募集

このたび、（世界で）100のgeo-collectionsの募集が始まります。申し込みは個別に、サイトから直接行ってください（募集期間：7/1-10/1）。

申し込み詳細：<https://iugs-geoheritage.org/first-call-for-iugs-geo-collections/>

<参考>2024年に韓国釜山で開催されたIUGSにおいて、下記の11件がGeo-collectionsジオ・コレクションとして認定されています。

01. Australia—Sprigg Ediacaran Fossil Collection, South Australian Museum-Adelaide Palaeontological Collections
02. Austria—The Meteorite Collection of the Natural History Museum Vienna
03. France—The d'Orbigny Collection
04. Georgia—Dmanisi Collection
05. Germany—Mineralogical Collections of the TU Bergakademie Freiberg (Mining Academy)
06. Greece—The Pikermian collection of the Athens Museum of Paleontology and Geology
07. Italy—Valdarno Pliocene and Pleistocene mammals
08. Japan—Japanese Antarctic Meteorite Collection

09. South Africa—Plio-Pleistocene Paleontology Section, Ditsong National Museum of Natural History

10. Spain—Permanent collection of the Museum of Human Evolution, human remains from the paleontological and archaeological sites of the Sierra de Atapuerca

11. United States of America—Thomas A. Greene Geological Collection

（文責：矢部 淳）



IUGS Geo-collections



2025年 地質の日記念イベント！！開催報告 街中ジオ散歩in Chiba 「身近な地形・地質から探る稲毛海岸の歴史」

1. まえがき

地質の日記念行事として、日本地質学会、日本応用地質学会共同主催により、一般の方を対象とした徒歩見学会（街中ジオ散歩）を開催しました。

街中ジオ散歩は、2年間の中止期間を挟み、今回で12回目の開催となりました。今年度は、千葉市稲毛海岸付近の埋め立て地と旧海岸線付近を対象とし、身近に観察できる地質や地形を見学しながら、半日間の散歩を楽しんでいただきました。

開催概要

開催日：令和7年5月11日（日曜日）

参加者数：19名

時間：集合10：00～解散13：30

見学コース：海洋公民館跡地（こじま公園）～旧納涼台～漁協解散の記念碑・民間航空発祥之地モニュメント～稲毛浅間神社～稲毛公園～稲毛陸橋と海食崖

案内者：山中 螢（千葉県立中央博物館）

白井 豊（元千葉県立中央博物館）

高橋直樹（元千葉県立中央博物館）

幹事：【日本地質学会】矢部 淳（国立科学博物館）、加藤潔（駒沢大学）、笠間友博（箱根ジオパーク事務局）、細矢卓志（中央開発）

【日本応用地質学会】原 弘（JR東日本コンサルタンツ）、橋本智雄（中央開発）、諸隈 暁俊（アジア航測）

2. 街中ジオ散歩の状況

(1) 当日の天候と開催状況 開催前日が大雨だったことも

あり、当日の天候が心配されましたが朝までに回復し、薄曇りから晴れ間に見える心地よい風の中での開催となりました。

(2) 海洋公民館跡地（こじま公園）案内者の山中さんによる全体説明の後、最初の見学地である「海洋公民館跡地（こじま公園）」へ向かいました。ここにはかつて「こじま」という実際の船舶が停泊し、海洋公民館として利用されていましたが、周囲の埋め立てによって、プールに浮かぶ状況から現在の公園へと変遷した歴史があります。現在、船舶は撤去されていますが、跡地に建設された市の施設の一角に「こじま」を偲ぶ展示室があり（写真1）、当時の様子を確認することができました。

(3) 旧納涼台（レストランちどり）続いて旧納涼台付近を見学しました。納涼台とは、潮干狩り客・海水浴客が、着替えたり、休憩する建物で、元来は海岸線沿いに位置していました。1960年代（第一期）の埋め立て工事により海岸線が沖合いに移動した際、納涼台は周辺店舗とともに新たな海岸線へ移設されました。その後、1970年代（第二期）の埋め立て時には移設されず、現在は住宅地の一角となっています。

かつての納涼台の施設図にも描かれていた「レストランちどり（現在は営業休止）」の建物は現在も残存しており、電柱のプレートには「納涼幹」の記載があるなど、往時の面影を確認することができました（写真2）。

次の見学地である「漁協解散の記念碑・民間航空発祥之地モニュメント」へ向かいました。記念碑周辺は広々とした公園となっており、多くの家族連れが訪れていました。

「漁協解散の記念碑」では、埋立に伴う漁業権放棄に経緯についての説明を受け、また、冊子掲載の「干潟の地形と漁場」模式図を用いて多様な漁業が営まれていた当時の様子を学ぶことができました。隣接する「民間航空発祥之地



写真1（左上）こじま公園（資料館）。写真2（中上）旧納涼台（レストランちどり）。写真3（右上）漁協解散の記念碑。写真4（左下）浅間神社の鳥居前の集合写真。写真5（中下）稲毛公園。写真6（右下）海食崖の露頭観察風景

のモニュメント」では、かつての稲毛海岸において広大な干潟を利用した日本初の民間飛行機開発・訓練の歴史について解説を受けました。1917年の台風による閉鎖まで、日本の飛行技術発展に多大な貢献を果たした経緯を知ることができました。

また、案内者の高橋さんによる記念碑の石材起源についての興味深い説明もありました（写真3）。

(4) 稲毛浅間神社 「稲毛浅間神社」では、まず神社から国道14号線を挟んだ対岸にある「一の鳥居」を見学しました。この鳥居はかつて海中に位置していましたが、埋め立てに伴い現在は陸上に復元されています。

往時は年一度の例大祭時には、複数の船の上に板を渡して橋をつくり、参拝者はこの「船橋」を渡っていました。現在の例大祭でも国道を一時閉鎖し、列をなして横断する行事が継続されています。

また、当時の写真や古い空中写真を検証し、「一の鳥居」が元来の位置からずれて復元されているという興味深い事実や、鳥居脇の小祠の「富士山見立て」について、使用石材の観察とともに説明を受けました。

その後向かった「稲毛浅間神社」の御社は、富士山に見立てた丘の上にあります。名前の通り富士山信仰の神社で、808年（大同3年）に設立され、富士山に倣い、3方に参道が設けられています。私たちは、二の鳥居側から西側の参道を上り、東側の参道へ下りました。この富士山型の丘は、元来の砂丘の高まりに盛土して富士山の形状に近づけたものだそうです。

(5) 稲毛公園 稲毛浅間神社の東側に位置する「稲毛公園」では、砂丘形成について説明を受けました。稲毛公園で観察される砂丘の高まりが北東-南西方向に延びており、これが卓越風の方角と一致していることが確認できました。また、公園内には多数の巨大な松が植えられていますが、卓越風により一定方向に傾斜したり、砂の移動により根部が

露出した現象（根上がり松）が多数観察されました（写真5）。

(6) 稲毛陸橋と海食崖 最後に、海食崖を作る下総台地と埋立てによる低地を結ぶ「稲毛陸橋（延長：270m）」へ向かいました。海食崖には、関東ローム層と下総層群が観察できる露頭があり、関東ローム層中には箱根起源のテフラも観察できたとのこと。現在は植生の繁茂により観察は困難ですが、今回も海食崖上部でロームらしき堆積物をわずかに確認できました。また、海食崖の上部では、内陸側（JR幕張駅側）に向かって緩やかに傾斜する地形が観察でき、季節風により台地上に砂丘の砂が堆積しているとの説明を受けました。参加者からは「このような台地のままで砂丘の砂が飛んでくるのですか？」という質問もありました（写真6）。

3. おわりに

見学会は盛況のうちに無事終了いたしました。事後のスタッフ反省会では、距離・時間・参加人数ともに適切であったとの意見が多く、参加者アンケートでも大多数の方に満足いただけたという結果でした。

一方で、今後に向けた改善点として以下の指摘もありました。

- ①ハンドマイクの向き等により、声が聞き取りにくい場面があった。
- ②話が盛り上がり、終了時間が予定を大幅に超過した。
- ③近隣の千葉県環境研究センターをより活用できた可能性がある。

次回以降、これらの課題を改善し、より安全で興味深く、楽しい見学会にしていきたいと考えています。

文責：細矢卓志・橋本智雄（中央開発）、矢部 淳（国立科学博物館）

支部コーナー

☆関東支部

報告

学生・若手会員向け「地質調査の基礎講座」 一城ヶ島巡検一実施報告

2025年5月31日（土）・6月1日（日）に日本地質学会関東支部では、標記の講座を実施しました。参加者は14名で、野外地質調査を行うのが初めてという学生さんや一般の方も参加されました。内訳は、非会員一般7名（一般2名、専門家4名；教員1名）、非会員学生5名（学生2名；大学院生1名；大学院留学生1名）、学生会員2名です。中には愛媛からの学生さんもいました。

この事業では本会の若手育成事業による学生会員参加費半額補助が適用されています。

5月31日（土）10時から16時まで神奈川県三浦市城ヶ島を半周する巡検を行いました。あいにくの天気でしたが、お昼過ぎには少し日が差し、最後の頃は雨が止んでいました。

最初に水垂で三崎層を観察し、展望台では地形を、展望台付近の崖では初声層やローム層を観察し、Hk-SP、Hk-TPのテフラや黒ボク土の説明をしました。また、馬の背洞門では初声層（堆積構造）や地形を観察し、その西方では三崎層に発達する褶曲を確認し、走向・傾斜を測定しました。長津呂崎では火災構造などを、灘ヶ崎では地質構造などを観察しました。専門家の方や大学院生には、走向・傾斜を測る際、学生さんたちの指導を手伝って頂きました。この場にて御礼を申し上げます。

6月1日（日）は10時から15時まで横須賀市産業交流プラザ第

一会議室にて、ローム層とテフラ、堆積構造、城ヶ島巡検の復習、走向・傾斜などの講義を行い、柱状図作成や走向・傾斜のデータから褶曲軸を求める実習を行いました。褶曲軸を求めることに手間取り、時間が少し足りなかったかもしれません。

参加者の感想を聞くと、この学生・若手会員向けの企画は色々な意味で大いに意義があったと考えます。

支部幹事：加藤 潔（駒澤大学）

城ヶ島巡検の感想（筑波大学生命地球科学研究群 修士2年 WANG JINGZHUO）

2025年5月31日、三浦市の城ヶ島にて地質巡検に参加した。天候はいにくの風雨で、海風が強く、岩場の表面も滑りやすかったが、自然下での地形や堆積層のリアルな状態を体感できる貴重な機会となった。

特に印象的だったのは、赤羽根崎の海食崖で初声層の露頭を観察できたことである。露頭最上部には赤褐色の関東ローム層が覆っており、主に火山灰に由来するこの層は非常に脆く、下部の堆積層との境界が明瞭であった。これまで教科書で見てきた地層を実際に目にし、大きな感銘を受けた。

長津呂崎では、典型的な火災構造が明瞭に観察された。灰白色の細粒堆積物が黒色の粗粒層に向かって舌状に巻き上がっており、重力不安定によって下層が上層に押し込まれた様子が立体的に確認できた。図でしか知らなかった構造を目の前で観察できたことは、形成過程への理解を一層深める経験となった。

また、水垂付近の岩体では、穿孔性二枚貝による多数の穴が確認され、その中には現生の巻貝が棲息していた。これは同一の地形が異なる時代の生物に利用されてきた例であり、生態的ニッチの再利用と呼べる現象である。時間を越えた生物相の交替は、環境の連続性と進化の一端を示しており、今後取り組む痕跡化石の研究にもつながる重要な気づきとなった。

さらに今回の巡検では、生物がいかに時間のスケールを超えて環境と共に進化してきたかを実感した。火災構造のそばに残された現生の昆虫の這い跡や、水垂の穿孔痕の再利用に見られるように、地質の変遷には生命の営みが深く刻まれている。

二日目に学んだステレオ投影法は特に印象的で、数か所の測定から岩体全体の走向や傾斜を把握し、地球規模の構造にまで視点を拡張できるという発想に強く心を動かされた。これをき

っかけに、自身の研究においてもより広い視野を持ち、地球環境の変動と生物との関係を探る視点が必要なのではないかと感じた。

今回の巡検は、単なる地層観察にとどまらず、時間・地質・生命のつながりを実感する対話の場となった。地質学的な知見を取り入れることで、私の研究に新たな奥行きと視野が加わったように思う。

城ヶ島巡検の感想（京都大学理学研究科地球惑星科学専攻 修士2年 菊池凌太）

私は、5月31日、6月1日に行われた地質学会の巡検に参加した。現在は京都に住んでいるが、JpGUの開催直後ということもあり、日程的に参加しやすかった。また、出身が埼玉で、もともと関東の地質に興味があったことも理由の一つである。

そんな期待を胸に現地へ向かったものの、当日はお世辞にも巡検日和とは言えない天候で、最寄り駅で降りるか迷ったほどだった。さらに電車の遅延もあり、Stop1には間に合わなかったため、ここではStop2から感想を述べることにする。とは言え全Stopについて触れると、おそらく卒論並みの文字数になってしまうし、何よりこれから訪れる人へのネタバレにもなるため、詳細は控える。

したがって、総括すると、城ヶ島では教科書的な美しい地形・地層・堆積構造を実際に観察することができ、大変有意義な体験となった。特に印象的だったのは、大正関東地震の際に隆起した段丘面である。以前、自分の研究で相模トラフについて触れたこともあり、その存在は知っていたが、実際に目にするとその規模の大きさに驚かされた。能登と同様に、衝撃的な出来事であったことは容易に想像できる。また、先生が繰り返しおっしゃっていた「城ヶ島は沈み込み帯の最前線」という言葉も、実際に現地を歩くことで深く実感できた。他にも、タービダイトや火災構造など、多様な堆積構造を観察することができ、非常に勉強になった。また、2日目の座学の休憩時間には、近隣の商店街を散策することもでき、地元の雰囲気を楽しめたのも良い思い出である。

以上の通り、城ヶ島、ひいては三浦半島は、地質学的、観光的にも魅力あふれる場所である。機会があれば、ぜひ足を運んでみてほしい。



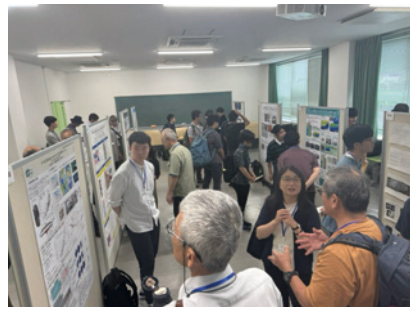
馬の背洞門



横須賀市産業交流プラザ



口頭発表の様子



ポスター発表会場



優秀発表賞受賞者と支部会会長

支部コーナー

☆中部支部

報告

中部支部2025年年会（静岡）報告

2025年6月21日（土）に、静岡大学静岡キャンパスにて、中部支部総会および研究発表会（シンポジウム、一般講演）を開催し、6月22日（日）に瀬戸川帯南部の超塩基性-塩基性岩類の産状を視察する巡検を行った。以下にその内容を報告する。（共催：日本応用地質学会中部支部；後援：静岡大学）

2025年6月21日（土）

1. 総会（参加者20名、議決権行使書提出者33名、委任状提出者3名で、定足数24名で総会は成立）

1号議案：2024年の支部活動報告・支部基金の会計監査報告がなされ承認された。

2号議案：中部支部年会の非会員研究発表会講演資格について、非会員の筆頭による研究発表は、日本地質学会会員と共同発表の場合のみ認めることが承認された。

3号議案：2026年度支部年会は新潟県で開催することが承認された。

2. 研究発表会（参加者計 44名：正会員 28名、学生会員 16名、非会員 24名）

2-1. シンポジウム『マントル物質研究の最前線』 13:00-16:00

趣旨：地球内部の主要な構成層であるマントルは、地球表層から深部に至るダイナミクスを支える領域である。マントル物質の化学組成や物性、流体との相互作用を理解することは、対流や物質移動のメカニズムを理解する上で欠かせない知見をもたらす。近年、高圧実験やオフィオリイト・高圧変成岩類から得られるデータの蓄積が進み、マントル物質研究は飛躍的に進展している。本シンポジウムでは、「マントル物質研究の最前線」をテーマに掲げ、岩石学・地球化学・構造地質学などの分野から最先端の成果を取り上げる。これにより、マントル内部における物質循環や動的プロセスの最新知見を共有するとともに、異分野間の対話を通じて統合的な理解の深化と新たな研究の展開を目指す。

趣旨説明 平内健一（静岡大学）

S-1 島弧超苦鉄質岩捕獲岩の岩石学的比較：ルソン火山弧の例 森下知晃（金沢大）

S-2 幌満かんらん岩の縞状かんらん岩・輝岩が記録するマントルの変形とメルト-岩石相互作用 田阪美樹（静岡大）

S-3 沈み込み帯におけるマントル岩石-スラブ流体相互作用 大柳良介（国土館大）

S-4 超苦鉄質岩中のアクセサリー鉱物とマントル研究 沢田輝（富山大）

マントル物質研究に関する座談会

2-2. 一般講演（口頭発表）

4名の会員が口頭発表を行った。

2-3. 一般講演（ポスター発表） コアタイム 16:30-17:30

計14件の多様な内容のポスター発表（P-1～P-14）がなされた。

※なお、研究発表会の講演要旨集は、中部支部HPにて公開されている。

https://geosociety.jp/outline/content0019.html#2025nenkai_rep

以下の学生会員による発表を優秀発表賞として表彰された。

外山和也、出口琢磨、宮田佳奈、徳川聡、二村康平、延原香穂、松本拓己、上山拓馬、原田藍生、塚脇遼、檜垣悠斗、窪田虎太郎（順不同 敬省略）

2025年6月22日（日）

3. 巡検：瀬戸川帯南部の超塩基性-塩基性岩類の産状

3-1. 内容：静岡市中・南部、四万十付加体南帯に属する瀬戸川帯の南部に分布する超塩基性-塩基性岩複合岩体の産状と、その周辺の地層との関連性についての観察を主目的とした一日コースの巡検を実施した。参加者数は32名であった。

3-2. 案内者：狩野謙一（静岡大）・諸橋良（ふじのくに防災フェロー）・平内健一（静岡大）

3-3. 行程

09:10 藤枝駅北口集合

09:30 藤枝総合運動場・第2駐車場

10:30～11:30 藤枝市瀬戸ノ谷石谷山、ビク石（塩基性-超塩基性岩体）および蛇紋岩

12:30～14:30 島田市千葉山、南西尾根“スカイペンションどうだん”周辺の瀬戸川帯滝沢衝上体の超塩基性-塩基性複合岩類

15:00～15:30 島田市牛尾、大井川右岸河床に露出する瀬戸川帯メランジュ

16:00～16:20 島田市金谷牧之原公園、牧之原台地の地質環境

16:30 金谷駅 解散

17:00 藤枝総合運動場・第2駐車場 解散

※CPD参加証明書：研究発表会及び巡検に参加した7名の技術士の方々にCPD参加証明書を発行した。



巡検の集合写真（2025.6.22）

CALENDAR

2025.8～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共) 共催、(後) 後援、(協) 協賛。

2025年

8月 August

東京地学協会【地図講座2025】

8月7日：講座A「Web地図で教材化、授業づくりにひと工夫」

8月7日：講座B「3次元地質地盤図で読み解く首都圏の地盤と災害リスク」

10月19日：巡検C「地形図を持って、河岸段丘の崖線、湧水、断層地形を観察しながら歩く」

11月16日：巡検D「河川争奪など地形地質の成因と人間の関わりを考えながら歩く」
参加費無料、非会員も歓迎。

<https://www.geog.or.jp/lecture/info/2025-05-27/>

(後) 科学教育研究協議会2025年第71回大会

8月8日(金)～10日(日)

会場：中央大学附属高等学校(東京都小金井市)

<https://kakyokyo.org/>

第79回地学団体研究会総会(高田)

8月29日(金)～31日(日)

会場：ミュゼ雪小町(新潟県上越市高田駅前)

<https://sites.google.com/view/takada2025/>

9月 September

第10回ぼうさいこくたい2025 in 新潟

9月6日(土)～7日(日)

場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

<https://bosai-kokutai.jp/2025/>

(後) 第68回粘土科学討論会

9月10日(水)～12日(金)

会場：産業技術総合研究所臨海副都心センタ

ー(東京都江東区青海2丁目3-26)

https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/

日本鉱物科学会2025年年会・総会

9月10日(水)～12日(金)

会場：山口大学吉田キャンパス共通教育棟

<https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/jams2025>

(共) 19th International Conference on Thermochronology

(第19回国際熱年代学会議/Thermo 2025)

9月14日(日)～20日(土)

会場：金沢商工会議所(金沢市尾山町9-13)

<https://smartconf.jp/content/thermo2025/>

★日本地質学会第132年学術大会(2025熊本大会)

9月14日(日)～16日(火)

会場：熊本大学黒髪地区

(共) 2025年度日本地球化学会第72回年会

9月17日(水)～19日(金)

口頭発表(ハイブリッド)、ポスター発表(対面)

場所：東北大学・川内北キャンパス

<https://www.geochem.jp/annual-meetings/latest-annual-meeting>

(後) 第6回アジア恐竜国際シンポジウム

9月26日(金)～30日(火)

会場：福井県立大学永平寺キャンパス(福井県吉田郡永平寺)

<https://dinoasia.asia/>

第42回歴史地震研究会(豊岡大会)

9月27日(土)～29日(月)

場所：芸術文化観光専門職大学(兵庫県豊岡市山王町7-52)

<https://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

10月 October

2025年度日本火山学会秋季大会

10月1日(水)～3日(金)

会場：キッセイ文化ホール(予定)(長野県松本市水汲)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

日本土地環境学会公開シンポジウム「多角的視点から考える土地の環境価値・評価に関する新たな指標」

10月4日(土)14:30-17:00

会場：追手門大学総持寺キャンパス(大阪府茨木市)

<https://www.j-lei.jp/>

2025 NEA IDKM Symposium

主催：OECD/NEA(ホスト機関：NUMO)

10月7日(火)～9日(木)

会場：パシフィコ横浜

サイトツアー(10/10)：東京電力廃炉資料館、福島第一原子力発電所(予定)

<https://geosociety.jp/outline/content0255.html#10>

Magellan Plusワークショップ：Land-to-Sea Shaking Studies (L2S3-WS)(海底・湖底堆積物を用いた地震履歴研究に関するワークショップ)

10月21日(火)～24日(金)

場所：国立台湾大学(台湾・台北市)

国内問い合わせ先：池原研(産総研)/中西諒(京都大学)

<https://sites.google.com/view/land2sea-workshop/home>

11月 November

国際 Gondwana 研究連合(IAGR) 2025年総会及び第22回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

11月2日(日)～6日(木)

会場：延世大学新村キャンパス(韓国ソウル)

2日：参加登録とアイスブレイカー

3日・4日：シンポジウム、総会、晩餐会

5日・6日：野外討論会

[http://www.gondwanainst.org/symposium/2025/IAGR/IAGR 2025 Circulars.docx](http://www.gondwanainst.org/symposium/2025/IAGR/IAGR%2025%20Circulars.docx)

(協) Techno-Ocean 2025

11月27日(木)～29日(土)

会場：神戸国際展示場2号館ほか(神戸市中央区港島中町6-11-1)

<https://to2025.techno-ocean.com/>

(協) 第41回ゼオライト研究発表会

11月27日(木)～28日(金)

会場：富山国際会議場

<https://jza-online.org/event>

一般社団法人日本地質学会2025年度総会

一般社団法人日本地質学会 2025年度総会議事録

1. 日時 2025年6月7日（土）14:00～15:45
2. 場所 Zoomオンライン会議システムによるWEB会議形式

3. 出席役員

理事：青矢睦月、天野一男、磯崎行雄、岩井雅夫、内尾優子、内野隆之、大坪 誠、大友幸子、岡田 誠、加藤 潔、加藤猛士、香取拓馬、亀高正男、川村紀子、桑野太輔、小松原純子、小宮 剛、坂口有人、佐々木和彦、沢田 輝、下岡和也、杉田律子、高嶋礼詩、田村嘉之、中澤 努、野田 篤、廣瀬 亘、星 博幸、細矢卓志、松田達生、道林克禎、矢島道子、矢部 淳、山口飛鳥、山路 敦、和田穰隆 以上、理事36名

監事：岩部良子・山本正司 以上、監事2名

4. 議長および議事録作成者

総会開催にあたり定款24条に従い本日出席の代議員から、議長として森田澄人代議員を選出した。

議長は審議開始に際し、総会規則第15条に従い書記として澤井みち代代議員ならびに宮川歩夢代議員を指名し、同時に議事録署名人として、両名を指名した。次にオンライン会議システムにより、出席者が一堂に会するのと同様十分な議論を行うことができる環境であることを確認した。

5. 議事の経過の要領及びその結果

出席社員の確認

代議員（＝社員）総数119名

議決権総数 119個

定足数 60個

出席者数 86名（議場出席者37名、議決権行使書22名、委任状27名）

議長は、出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数60名をこえる出席者があるので成立している旨宣言した。その後、議決権行使書において、すべての議決において賛成であったことを確認し、議事に入った。

第1号議案 2024年度事業報告・決算報告・監査報告

1) 亀高常務理事より、資料にもとづき2024年度の事業報告があった。学術大会、学術研究活動、出版活動、地質災害対応、広報・普及活動、社会貢献、地学教育、国際連携、会員サービス・学会運営の各事業について概要が説明された。学会ウェブサイト（HP）のリニューアルに向けて、新しいHPの整備状況について内尾理事から紹介された。会員動静では、2024年4月末に比べ2名会員数が減少したことが報告されたが、減少幅が小さくなっている。2024年

5月から2025年4月末までに逝去された会員および今年度において逝去が判明した会員12名（うち名誉会員3名）に対し、黙祷を捧げた。次に、2024年度事業経過報告について、次の通り抜粋して報告があった。学術大会では、山形大会独自のイベント（山形城と石材見学会）が開かれた点についてLOCに感謝の意が示された。さらに、各支部の活動実施概要が紹介され、執行理事会および理事会議決・承認事項について、資料から抜粋して報告があった。この中で、名誉会員推薦委員会を立ち上げ推薦を募集したものの、推薦が無かったことから、次回以降の積極的な推薦が呼びかけられた。最後に、2024年度内にご寄付いただいた方（故 石賀裕明会員ご遺族）の紹介があった。

2) 会計担当の加藤猛士理事から、2024年度決算について報告があった。2024年度は241,491円の黒字決算であった。事業活動収入の部では、会費収入は予算に比べ賛助会員の増加などにより微増した。出版事業は、Island Arcの編集費・関連収入等により微増した。年会開催事業収入は、参加登録費の減少分を展示収入の増加により補填した形となった。普及事業収入については、普及企画協賛費の増加により、予想より大幅に増加した。寄附金は年会開催事業での寄付金収入が大きく反映され、増加となった。事業活動支出の部では、概ね予算通りとなった。出版事業に関して、出版編集費等の経費削減の結果、支出が減少している。年会開催事業費は、会場設営・設備費の高騰により、支出が大きくなった。普及事業は、大きな変更はないが、普及イベント実施費用の増加は、学術大会でのアウトリーチ巡検時のバス代を計上したものである。特別事業の支出はなかった。管理費の支出減少は経費削減に努めた結果であることが報告された。

その後、岩部良子監事より監査報告があり、事業報告および計算書類等について適正であることが報告された。

3) 質疑：菊川照英代議員より、会員減少幅が縮小していることに対して学会のどのような取り組みが功を奏しているのか質問がなされた。これに対して、亀高常務理事から、バック制会費・若手活動の活発化などが貢献していると考えられるが、今後精査を進める旨の回答がなされた。加えて、バック制会費の期間が切れた際の退会を避けるための取り組みについて、検討を求められ、継続して在会してもらえように取り組むとの回答があった。ほかにも、学術大会の学生優秀発表賞は、学生のモチベーションを高める役割を担うことから、継続

の希望が述べられた一方、審査員の負担が大きいという問題点について、審査員の幅を広げる・賞の対象者（エントリー）が多いセッションを会期前半に設定するなどの対策の必要性が提案された。これに対して、亀高常務理事も審査員確保の困難さを認識していること、審査側の門戸を広げるなどの取り組みを検討していくとの回答があった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場37、議決権行使書22、委任状27）で承認された。

第2号議案 2025年度事業計画

山路会長より、2024年度の本学会の事業成果を踏まえた2025年度の事業計画の基本方針が示された。学術大会は熊本大学にて9/14-16に開催する。学術研究活動および広報・普及活動として、HPの大幅改修を引き続き実施し、近々新サイトへの移行を完了する。出版活動においては、最近の地質学雑誌・Island Arcの安定した出版状況を維持し、会員の多くに魅力的と捉えられているジオルジュの発行を継続する。また、J-Stage掲載論文の検索を可能にするデジタル化に取り組む。広報普及活動として、webでの講演会を実施する。地学教育に関しては、高校「地学」の教科書改訂に向けた意見集約のための準備を行う。会員サービス・学会運営として、会員定着率向上に向け、継続的な若手支援やダイバーシティ拡大に向けた取り組みに加え、新たにシニア層への手当を重要課題として取り組む。地質災害対応、社会貢献、国際連携は昨年度同様に取り組む。本議案に対する質問はなかった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場37、議決権行使書22、委任状27）で承認された。

第3号議案 2025年度予算案

加藤猛士理事から、2025年度収支予算案について説明があった。事業活動収入として、会費収入は賛助会員など増加を見込み、2024年度より微増で試算している。出版事業収入は、増加を見込む。年会開催事業については、学術大会運営にかかる費用の高騰を鑑み、参加登録費の値上げによる収入の増加を見込む。普及事業については、特にショートコース等のイベントを継続的に実施し、収入増加を見込む。支部・部会活動については、少しずつ活動が再開されることを期待して計上した。若手育成事業は昨年度の動向を踏まえ計上する。引当預金取崩し収入については大幅に増加とした。これは、若手事業等例年通りの使用に加え、HPリニューアルや学会誌のデジタルアーカイブ（OCR）化、

学術大会、フィールドノート増刷等に割り当てられる予定であることが説明された。支出は概ね前年度並みを見込むが、出版事業は、出版編集費の値上げのため微増が見込まれる。年会開催事業費は、機器賃借料や会場設営・設備費、委託費等の高騰のため、昨年度より増額を見込む。普及事業費は、フィールドノート増刷費のため増額する。支部・部会等活動および若手育成事業では、活性化を見込んだ計上を行っている。研究奨励、特別事業、管理費は例年並みの計上とする。

2019年度の赤字決算以降、2020年度からは5年連続で黒字決算となっているが、概算で2020年度は200万円、2021年度は600万円、2022年度は400万円、2023年度は200万円と学会活動が新型コロナ以前の状況に戻ってきていることから、学会活動を継続的・発展的に行っていただくため、例年より多い引当金を計上することへの理解が求められた。本議案に対する質問はなかった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場37、議決権行使書22、委任状27）で承認された。

第4号議案 運営規則の変更

亀高常務理事より、運営規則「第7章 表彰」の「(11) 日本地質学会学生優秀発表賞」の対象者を、「学生会員」から「学籍のある会員」に変更することが提案された。これは、「学生会員」の申請を行わず「正会員」として登録されている学生が、学生優秀発表賞にエントリーできるようにすることを目的とする。また、4月19日の理事会において承認された各賞選考に関連した規則改正についても説明があった。本議案に対する質問はなかった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場37、議決権行使書22、委任状27）で承認された。

以上をもって全ての審議を終了した。最後に山路会長より、参加者への謝意が伝えられた。シニア会員の活性化、選挙や各賞の重要性についても言及され、あらゆる分野・立場の会員からの提案・推薦を期待する旨、学会の活性化に向けた協力を期待する趣旨が述べられた。その後議長は閉会を宣言した。

2025年6月7日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人、出席理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2025年度総会
総会議長 森田澄人
議事録署名人 澤井みち代
議事録署名人 宮川歩夢
代表理事 山路 敦
理 事 亀高正男
(以下理事氏名略)

2024年度事業実績概要

1. 学術大会

【山形大会】 第131年学術大会を山形大学をホスト校として2024年9月14日（日）～16日（火）に開催した。昨年度と同様、口頭発表・ポスター発表ともに現地開催とした。講演数は520件（うち口頭266件、ポスター 254件）のエントリーがあり（うち口頭1件、ポスター3件はキャンセル）、参加登録者数728名（会員622名、非会員106名）、巡検参加者数142名となり、前回の京都大会から参加者数は減少したものの、講演数は増加した。また、表彰式・記念講演会や地質巡検、ランチオン・夜間小集会、市民講演会、地質情報展、企業展示、地質系業界説明会、学生・若手のための交流会、山形城と石材見学会等の関連イベントも現地開催され、盛況裏に大会を終えることができた。昨年度新設された学生優秀発表賞の審査を行い、134件のエントリーの中から34件を選出した。

【大会運営】 完全な形で現地開催を企画し、運営方法について入念に検討を重ね、無事に開催することができた。山形大学の後援による会場借用費の半額免除、山形コンベンションビューローからの補助を受けたにも関わらず開催経費がかさんだ点は今後の検討課題である。

2. 学術研究活動

【各賞の選考・授与】 例年通り各賞の選考を行い、優れた学術研究に対して論文賞、小藤賞などを授与した。今後とも会員の良質な研究を後押しする。

【連合大会へのセッション提案】 連合大会では地質学会から毎年セッション提案を行っており、本年度も日本地球惑星科学連合2024年大会に14のセッションを提案・後援した。

【他学協会との協力】 日本地球化学会第71回年会を共催するなど、他学会との学術交流を進めた。

【ショートコース】 ショートコースを今年度も開催した。第11回ショートコース「微化石」を企画・開催し、会員・非会員を問わず多くの参加者を集めた（延べ71名）。

【ポール・F・ホフマン氏講演会】 ポール・F・ホフマン氏が第39回京都賞を受賞されたことを受け、11月14日に東京大学で開催された講演会を協賛した。併せて、地質学雑誌にホフマン氏の業績に関する特別寄稿を掲載した。

3. 出版活動

【地質学雑誌】 2024年の投稿数は前年度程度で概ね堅調に推移した。

【Island Arc誌】 Wileyの投稿・査読システムがSchlorOneからREXへ変更となり、査読で若干の混乱が生じたが徐々に改善されつつある。最新のIFは1で近年やや低下傾向にあり、今後のさらなるIFのアップのために会員に広く投稿と同誌掲載論文の積極的な引用

を促した。編集長2名が交代し、新たな体制で編集を進めた。

【ニュース誌】 従来通り、最近の研究動向や学会運営状況などの情報提供に努めた。また、学会HPにニュース誌のPDFファイルを掲載した。

【ジオルジュ】 公式広報誌であるジオルジュを継続的に刊行した。配布地点の拡充及びフリーペーパー化によって、より多くの市民の目に触れるように努めた。

4. 地質災害対応

【災害対応】 令和6年能登半島地震に関して、学会HP等を通じて、会員ならびに関連機関の調査等の情報を積極的に発信した。防災学術連携体の「令和6年能登半島地震7ヶ月報告会」および「阪神・淡路大震災30年シンポジウム」に、学会推薦としてそれぞれ各1名の会員に講演を依頼し、能登半島地震の地質学的背景や阪神淡路大震災後の地震の物質科学的な研究の進展について、関連分野を含めた研究者・技術者に広く情報発信した。また、7月に発生した山形豪雨災害の緊急展示を山形大会で行った。

5. 広報・普及活動

【広報】 社会における本学会の認知度向上および新規会員獲得に資するため、広報活動に努めた。学会HPリニューアルに向けて、必要な情報を探しやすく、分かりやすい形で発信できるよう、ウェブデザイン刷新に向けた検討を重ねた。学術大会について、例年の内容から一部変更してプレスリリースを行った。また、学会公式SNSとしてX（旧：Twitter）やInstagramの活用を推進し、学会イベント等の情報の速報性を高めた。

【フォトコンテスト】 第16回惑星地球フォトコンテストを開催し、432点（昨年比+229点）の応募作品の中から優秀賞をはじめ12点の入選作品を選出した。また、第15回フォトコンテストの入選作品展示会を都内のギャラリー（東京パークスギャラリー [上野グリーンサロン内：台東区上野公園]）で2024年5月1日（水）～12日（日）に開催した。

【地学オリンピック】 本年度は第18回国際地学オリンピック2025大会の予選となる、第17回日本大会への開催協力を行った。第17回国際地学オリンピックは中国の北京で2024年8月8～16日に実施され、30か国から116名の参加があった。日本代表として4名の高校生が参加し、2名が金メダル、2名が銀メダルを獲得した。

【地震火山地質こどもサマースクール】 地震火山地質こどもサマースクールは当学会が継続的に支援を行っている事業であり、サマースクール連合企画委員会および運営委員会における検討に参画している。今年度は8月7日（水）～8日（木）に、徳島県三好市において第23回サマースクール吉野川大会が開催され、その企画・運営に協力した。来年度は御嶽山（岐阜県木曽町）で開催予定であり、開

催に向けた準備をすすめた。

【地質の日】 地質の日イベントとして、オンライン講演会「令和6年能登半島地震による地殻変動と地盤災害」を5月12日（日）に開催し、多数の参加者を集めた。YouTubeでの配信も行い、視聴数はこれまでに3000回を超えた（2025/4/19現在）。また、街中ジオ散歩イベントを5月19日（日）に麻布で開催した。そのほか、惑星地球フォトコンテスト入選作品の展示会を都内ギャラリーで実施した。支部においても各地で講演会や体験型のイベントが企画・実施された。

6. 社会貢献

【地質標準関係】 国際層序委員会の国際年代層序表に基づき、GSSP新規策定を反映した日本語版層序表の改訂を行い、学会HPにて公開した。地質に関するJIS規格（JIS A 0204およびJIS A 0205）の改訂に向けた作業を行った。

【地質技術者関係】 JABEE 地球・資源分野の運営や認定プログラムの継続審査に参画した。企業会員向けには、「土質・地質技術者の生涯学習ネット（GEO-Schooling Net）」を利用して企画する講習会・見学会の情報を提供し、参加者にCPD証明書を発行した。例年学術大会に併せて企画している「学生のための地質系業界説明会」を対面およびオンラインのそれぞれで開催し、合計52の企業・団体と78名の学生が参加した。就職支援プログラムとして、高校生を対象としたJABEEポスターを作成・配布した。大学生・大学院生を対象とした「地質系若者のためのキャリアビジョン誌」を今年度も発行し、参加企業数は117社、掲載ページ数は131ページに増加した。高大連携をテーマとして、第5回JABEEオンラインシンポジウムを3月2日（日）に開催し、動画をYouTubeで公開した。【ジオパーク】 ジオパーク支援委員会を中心に、JGN（日本ジオパークネットワーク）およびJGC（日本ジオパーク委員会）への協力を進め、学術団体が中心となって組織されたジオパーク学術支援連合会（JGASU）の運営に主要学術団体として携わった。2023年1月に開催したオンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学」の内容を基に、企画出版「大地と人の物語 ～地質学で読み解く日本の伝承～（仮）」（創元社）へ向けて、原稿の編集を進めた。

7. 地学教育

【大学入試】 令和7年度大学入学共通テスト（本試験）の地学関連科目「地学基礎」、「地学」の問題を確認し、意見書を取り纏め大学入試センターに提出した。

【生涯学習】 地球なんでもQ & A、街中ジオ散歩、学術大会アウトリーチ巡検、普及講演会の開催、地学オリンピックや地震火山地質子どもサマースクールの支援を通じて、青少年からシニアまで幅広い世代に地質学の学習の機会を提供した。

【ジュニアセッション】 小中高校生の地質学に関連した研究成果発表を募集した結果、今年度は11校21件の応募があり、山形大会のポスターセッションに併せて現地でもポスター発表が行われた。すべてのポスター発表に対して評価・コメントを行い、これらの中から優秀賞1件と奨励賞3件を選出し、表彰した。

8. 国際連携

【学術交流協定】 学術交流協定を締結しているモンゴル地質学会および台湾地質学会との交流を継続した。タイ地質学会およびロンドン地質学会とは、学術交流協定の更新手続きを進めた。2024年8月に韓国釜山で開催されたIGC2024については、ホスト国の韓国と協力体制が取れなかったことについて、詳細な経緯を学会HPに掲載し広く周知した。

9. 会員サービス・学会運営

【事業運営】 学会財政の見直しを踏まえた各事業の実行にあたり、事業目的の達成度と効果の確認を踏まえて各事業の健全化に努めた。学術大会の経費増加の対策を検討した。学会運営の適正化を図るため、各委員会の規則類の整理を進めると共に、巡検案内書や各賞選考に関連した規則類の改定を行った。

【ダイバーシティ推進の取り組み】 ジェンダーダイバーシティ委員会の助言に基づき、学会運営に携わる主要な委員会のメンバー構成についてダイバーシティの配慮に努めた。学術大会のセッション世話人についても、ダイバーシティを意識した提案者構成を強く勧めた。

【表彰制度の見直し】 優れた研究、地質学の発展・普及等に貢献された方々を適切に評価し、学会のさらなる活性化を図ることを目的として、学会の表彰制度について見直しをすすめている。昨年度新設された学生優秀発表賞については、評価方法の改訂を行い山形大会での選考に適用した。

【若手育成事業】 野外調査をベースとした若手地質研究者の育成を目的とし設置した研究奨励金支給制度の募集を行い、選考の結果6名に奨励金を支給した。若手の野外地質研究を対象とするフィールドワーク賞の候補者募集・選考を行った（該当者なし）。若手支援の一環として、学術大会や支部主催の巡検等の参加費の半額補助を実施した。

【支部活動】 新型コロナウイルスの影響で低調になっていた支部活動が活性化してきた。支部が企画・実施する講演会や巡検などの各種イベントの広報などを行い支援した。

【会員サービス】 会員に対して、ジオフラッシュやHP、ニュース誌を通じて、さまざまな参加行事の広報を継続的に行った。学会公式SNSにおいても学会関連の情報発信に努めた。またショートコースの開催、企業会員へのCPD証明書の発行、学生・院生会員への就職支援プログラム等を通じて学術発表以外のメリットの増大を目指した。正会員（学生会員）の会費の2年バック・3年バックの運

用、およびジュニア会員の募集を行った。

【若手活動運営委員会の活動】 山形大会に併せて若手活動運営委員会が企画した「学生・若手のための交流会」を開催し、59名が参加した。若手巡検in愛知県・岐阜県を10月26日（土）に実施し、26名が参加した。このほか、2月14日（金）に学生・若手研究者を対象として、地質系の民間企業・研究所職員・ジオパーク職員などの広く地質学に関わる仕事に携わる方とのオンライン交流会を実施し、25名が参加した。

【シニア会員への対応】 シニア会員の活動支援の一環として、シニア会員へのアンケートを実施した。アンケート結果を参考に、シニア会員の活動を支援する企画を検討した。

【会員管理システム】 昨年度から稼働しているクラウド版の会員管理システムに、専門部会および支部のメール配信システムを実装した。

【事務局体制】 学会事務局は引き続き事務局2名体制で、学会に関連する各種業務を遂行した。クラウド型会員管理システムの本格運用による負担軽減を図り、業務の整理統合と効率化、諸規則の整備による継続的な事務局業務の推進を実施した。

2024年度事業経過報告

1. 報告事項

1) 会員の動静

2025年4月末現在の会員は、賛助会員37社、名誉会員34名、ジュニア会員6名、正会員3033名（一般：1954名、シニア：891名、学生：188名）、会員総数3110名、2024年4月末と比べて2名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者153（賛助6社、ジュニア会員1名、正会員146名）

退会者95（賛助0社、正会員95名）

除籍者48（正会員48名）

逝去者*12（名誉会員3名、正会員9名）

名誉会員：佐藤 正（逝去日：2024/9/15）、小西健二（10/25）、杉村 新（2025/3/1）

正会員：千代田厚史（逝去日：2021/6/4）、石井久夫（逝去日不明、4月上旬頃）、門田真人（6/12）、田中 保（9/14）、辻 隆司（10/18）、古川克彦（11/27）、徳山英一（2025/1/13）、橋本邦俊（2/21）、松原尚志（3/6）

*2024年5月から2025年4月末日までに届出のあった方々。

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2024年度定時総会>

日時：2024年6月8日 14:00～15:45、WEB会議形式

議決権のある社員総数 136名（定足数：69名）、議決権の数 136個

出席社員数（委任状および議決権行使書提出

者を含む) 99名、
議決権の総数 99個、出席理事 41名、出席
監事 2名

審議事項: 1) 2023年度事業報告・決算報告・
監査報告、2) 代議員、理事および監事選挙
結果報告、3) 2024年度事業計画、4) 2024年
度予算案、5) 名誉会員の選出、5) 運営規則
の変更

いずれの議案も賛成多数で承認。

＜委員会等の開催＞

- ・執行理事会 (12回) 議事内容、報告等につ
いては、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・理事会 (4回) 議事内容、報告等について
は、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・その他委員会 (WEB会議またはメールに
よる会議を含め、随時開催)

3) 学会の行事・事業

1. 第131年学術大会 (2024山形大会)

会期: 2024年9月8日 (日) ~10日 (火)

会場: 山形大学小白川キャンパス基盤教育棟
(山形市小白川町)

参加者: 728名 (会員622名、非会員106名)

- ・一般発表申込: 520件 (口頭266件、ポス
ター 254件)
- ・シンポジウム: 1件 (S1口頭6講演)
- ・アウトリーチセッション (ポスター 2件)
- ・緊急展示ポスター (1件)
- ・学生優秀発表賞の授与: 34件
- ・巡検: 実施全8コース (A~Hコース)
- ・ランチョン: 専門部会を中心に実施13件
(9/8: 3件, 9/9: 7件, 9/10: 3件)
- ・夜間小集会: 実施8件 (9/9: 7件, 9/10: 1
件)

＜日本地質学会各賞の授与式・記念講演会＞

日時: 9月8日 (日) 15:30-17:40、会場:

山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館

・来賓挨拶 玉手英利氏 (山形大学学長)

・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ

羽田裕貴 (産業技術総合研究所)

「鮮新世~更新世の古海洋・古地磁気復元ー
ハイレゾ分析から見える北西太平洋の千年ス
ケール変動ー」

・日本地質学会棚山雅則賞受賞スピーチ

奥田花也 (海洋研究開発機構高知コア研究
所)

「地震発生メカニズムの解明にむけた沈み込
み帯を構成する物質の摩擦特性」

・2023年度棚山雅則賞受賞スピーチ (昨年、
体調不良により欠席)

大柳良介 (国士舘大学理工学部)

・日本地質学会H.E.ナウマン賞受賞記念ス
ピーチ

岡本 敦 (東北大学)

「岩石と流体の反応を読み解く: 「かたち」と
「うごき」」

・日本地質学会都城秋穂賞受賞記念講演

Gregory F. Moore 氏 (Emeritus Professor,
University of Hawaii)

「Effects of seamount subduction on the

northern Hikurangi margin -- subduction
erosion or accretion?」

＜関連行事＞

・地質情報展2024やまがた一山と盆地をつ
くる大地のヒミツ、9月6日 (金) ~8日
(日) 参加者: 約1200名

・市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」、9月
8日 (日) 山形テルサ1F大会議室、講師:
柳澤文孝氏 (山形大学名誉教授)、八木浩
司 (山形大学名誉教授、(公財) 深田地質
研究所)、参加者: 約90名。

・山形城と石材見学会 (LOCによる一般市
民・会員向け普及行事)、9月7日 (土)、案
内者: 齋藤 仁氏 (山形市文化スポーツ部
文化創造都市課文化財係)、大友幸子、参
加者28名。

・第22回日本地質学会ジュニアセッション
(ポスター発表による審査)、9月8日 (日)、
参加校11校、21件、うち1件に優秀賞を、3
件に奨励賞を授与。

・学生のための地質系業界説明会 (地質技術
者教育委員会企画): 参加企業: 47社。

対面説明会 (山形大学)、9月9日 (月)、参加
企業35社、21大学・1高校から66名の参加。

オンライン説明会 (zoom)、9月13日 (金)、
参加企業38社、7大学から12名の参加。

・学生・若手のための交流会 (若手活動運営
委員会企画)

現地交流会 (山形テルサ1F大会議室)、9月
7日 (土)、参加者59名。

2. 地質の日ほか、本部イベント

・地質の日オンライン一般講演会「令和6年
能登半島地震による地殻変動と地盤災害」、
5月12日 (日) 9:30-12:05、YouTubeによる
ライブ配信、当日視聴者数191名 (配信中
の最多視聴数)、講演1. 「地震がつくった
能登半島の大地」、講師: 穴倉正展 (産業
技術総合研究所)、講演2. 「能登半島地震
による新潟市域の液状化被害」、講師: 卜
部厚志 (新潟大学災害・復興科学研究所)。

・街中ジオ散歩 in Tokyo「身近な地形・地
質から探る麻布の歴史と湧水」徒歩見学会
(日本応用地質学会との合同主催行事)、5
月19日 (日)、参加者21名、講師: 林武司
氏 (秋田大学) 宮越昭暢氏 (産業技術総合
研究所)。

・惑星地球フォトコンテスト第15回ほか入賞
作品巡回展示 (2024年4月~2025年3月)

東京パークスギャラリー (上野グリーンサロ
ン、台東区上野公園)、5月1日 (火) ~12 (日)

[第14・15回入選作品]

地質情報展2024やまがた一山と盆地をつ
くる大地のヒミツ、9月6日 (金) ~8日 (日) [

第15回入選作品の画像ファイルを大型モニ
ターで再生]

蒲郡生命の海科学館、10月26日 (土) ~11月
24日 (日) [第15回入選作品]

3. ショートコース (オンライン形式)

・第11回ショートコース、7月21日 (日)・28

日 (日)、各日午前9:00-12:00、受講申込者
数: 71名。※講師都合により、2日に分けて
開講。

(7/21) 講師: 松岡 篤 (新潟大学)、「微化
石一般と放散虫」

(7/28) 講師: 林 広樹 (島根大学)、「微化
石データ活用の最前線」

4. その他: オンライン形式のシンポジウ
ム・ワークショップ

・地質系業界オンライン交流会 (若手活動運
営委員会企画) 2025年2月14日 (金)、
17:30-19:30、当日参加者25名。

・第5回JABEEオンラインシンポジウム「高
等学校での地学教育と大学での専門教育と
の連携~地球科学の中等教育から高等教育
にどのように繋げるか~」(地質技術者教
育委員会・地学教育委員会共催企画)、
2025年3月2日 (日)、13:30~17:00、zoom・
YouTubeでの後日配信、講演者: 高木秀
雄 (早稲田大学)、藤原靖 (神奈川県立相
模原弥栄高等学校)、今井康浩氏 (高知県
立室戸高校)、立石 良 (富山大学)、堀
利栄 (愛媛大学)、向吉秀樹 (島根大学)、
坂口有人 (山口大学)、向山 栄 (国際航
業 (株))、参加者約100名。

5. Web教材『ボクたちの“足もと”から地球
のことを知ろう』の利用実績

・教材URLへのアクセス数 (2024年度):
60,349件

6. 地質学者に答えてもらおう (2012年3月
~運用開始)

2024年度内の質問数22件、これまでの質問
の主なものとその答えは学会HPにて公開中。

4) 出版物の刊行

＜地質学雑誌＞

・130巻1号~131巻1号を刊行した。2024年4
月~2025年3月末までの総ページ数は448ペ
ージ。

＜日本地質学会ニュース＞

・27巻4号 (2024年4月) ~28巻3号 (2025年3
月) を発行した。総ページ数は324ページ。

＜Island Arc＞

・Island Arc 編集委員会の編集により、
Wiley社よりVol.33, Issue 1~Vol.34, Issue
1を刊行した。2024年4月~2025年3月末ま
での総ページ数は545ページ。

＜ジオルジュ＞

・前期号 (2024年5月、20ページ)、後期号
(同年11月、20ページ) を発行。

＜リーフレットほか＞

・たんけんシリーズ3「城ヶ島たんけんマッ
プ」2024年7月改版増刷 (第2版、3000部)。

＜その他＞

・「地質系若者のためのキャリアビジョン誌
2024」2025年1月、フルカラー 131p (117
社掲載)、3000部発行。配布先: 全国46大
学50機関。

5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員、継続してそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合：代議員（山路敦）、連絡委員（加藤猛士）、プログラム委員（宇野正起、野々垣進）、ダイバーシティ推進委員会（堀 利栄）、環境・災害対応委員会-災害の委員（川畑大作）、環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井 衛）、自然史学会連合（兼子尚知）、土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD）（佐々木和彦）、JABEE担当委員（竹内真司）、地球・資源分野JABEE委員（佐々木和彦、金川久一、坂口有人、細矢卓志、亀高正男、向吉秀樹）、地質の日事業推進委員会（委員長：平田大二）、日本ジオパーク学術支援連合（JGASU）：委員・代表（天野一男）、（NPO）地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人）、地震火山地質子どもサマースクール運営委員（柴田伊廣）、防災学術連携体連携委員（亀高正男（常務理事）、松田達生（地質災害委員長））など。

6) その他報告事項（主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2024年度内において承認したもの）※そのほかはNews誌、HPに掲載の執行理事会議事録、理事会議事録参照。

＜他学協会などからの依頼＞

- ・日本地球化学会「2024年度日本地球化学会第71回年会」（9/18-20、金沢大学）の共催。
- ・地学オリンピック日本委員会「2024年度地学オリンピック」への活動支援への協賛。
- ・新潟大学学術資料運営機構より企画展「生きた化石シャミセンガイ」（7/24-8/31、新潟駅南キャンパスときめいと）の後援。
- ・日本粘土学会「第67回粘土科学討論会」（9/4-6、九州工業大学戸畑キャンパス）の後援。
- ・蒲郡生命の海科学館「第15回惑星地球フォトコンテスト入選作品展」（10/26～11/24）の共催。
- ・石油技術協会令和6年度秋季講演会（11/12、東京大学小柴ホール）の協賛。
- ・第62回アイソトープ・放射線研究発表会（2025/7-24、日本科学未来館）の後援。
- ・2024年度「京都賞」受賞のPaul Hoffman博士の受賞記念講演（11/14、東京大学駒場キャンパス）の協賛。
- ・日本応用地質学会「令和6年度技術者倫理講習会」（11/27、オンライン）の後援。
- ・三浦半島活断層調査会観察会「大地を分ける武山断層！」（12/21）の後援。
- ・神奈川県立生命の星・地球博物館より企画展「すな～ふしぎをみつけよう」（2025/2/22-5/11）の後援。
- ・岩の力学連合会「第16回岩の力学シンポジウム」（2025/1/14-16、熊本城ホール）の協賛。
- ・日本学術会議「原子力総合シンポジウム

2024」（2025/1/20、学術会議講堂・オンライン）の後援。

- ・社会地質学会「第34回環境地質学シンポジウム」（12/6-7、日本大学文理学部、ハイブリッド開催）の後援。
- ・「Techno-Ocean 2025」（2025/11/27-29、神戸国際会議場）の協賛。
- ・ScienceBar_INCUBATORより顕微鏡写真の写真コンペ企画「2025 MicroArt」（応募締切：2025/3/28）の協賛。
- ・三浦半島活断層調査会観察会「海底に眠る南下浦断層」（2025/4/29）の後援。
- ・筑波大学朝永振一郎記念第20回「科学の芽」賞（募集期間：2025/8/18～9/13）の後援。
- ・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2025」（2025/6/14-26/1/25、全国各地29都道府県42会場）の後援。
- ・第68回粘土科学討論会（2025/9/10-12、産総研臨海副都心センター）の後援。
- ・科学教育研究協議会「第71回全国研究大会・東京大会」（2025/8/8-10、中央大学附属中学校・高等学校）の後援。
- ・日本地球化学会「2025年度日本地球化学会第72回年会」（2025/9/17-19、東北大学川内北キャンパス）の共催。

＜他学協会などへ依頼＞

- ・第15回惑星地球フォトコンテストについて、後援および協賛を依頼し承諾された。（ ）は後援および協賛金。
- 後援：日本ジオパークネットワーク（3万円）、深田研昭ジオ鉄普及委員会（1万円）
- 協賛：株式会社ウィンディーネットワーク（5万円）
- ・第132年学術大会（熊本大会）の次のトピックセッションについて、共催を依頼し承諾された。
- 「T7. 堆積地質学の最新研究」：日本堆積学会、日本有機地球化学会、石油技術協会探鉱技術委員会との共催。
- ・熊本大会関連行事（地質情報展・市民講演会）にたいする助成金の申請が採択された。
- 公益財団法人セコム科学技術振興財団（100万円）、科学研究費（120万円）。

7) 支部の活動

＜北海道支部＞

1. 支部例会・総会：6/8（土）オンライン（ZOOM会議）にて総会を開催。6/22（土）北大理学部大講堂にて2024年度支部例会（個人講演会）を開催。
2. 幹事会：3/7（木）オンライン開催、ほかメール会議。
3. 行事：
 - 1) 2024年度「地質の日」：記念展示なし。
 - 2) 北海道地質百選検討グループ
 - ・グループ構成員：石井正之、垣原康之、重野聖之、田近 淳、中川 充、宮坂省吾
 - ・ウェブサイト運用：北海道地質百選をウェ

ブサイトで公開している。PC故障につき更新停滞中。

- ・「北海道自然探検 ジオサイト107の旅」出版および印税収入：2024年度売り上げ56冊（出版以来の総売り上げ1,931冊）。

3) 巡検関係：実施なし。

4) ジオパーク関係：旭川カムイミントラジオパーク構想の支援を実施した。

＜東北支部＞

1. 第131年学術大会（9/8（日）～10（火）、山形大学小白川キャンパス）の開催につき、2024年度の東北支部発表会・講演会は開催なし。

＜関東支部＞

1. 支部総会（4/20（土）、北とびあ7階第2研修室、Zoomによるハイブリッド形式での実施）。出席者数86名（会場27名、オンライン8名、議決権行使書18名、委任状68名）、議長：青野道夫会員（合同会社ジオプレイズ）
2. 定例幹事会（オンラインかハイブリッド形式で月1回程度の間隔で開催）。4/26、5/21、6/25、7/30、8/30、9/24、10/18、11/20、12/18、2025/1/30、2/26、3/13

3. 行事

①巡検

- ・家族巡検「葛生化石館と周辺の石灰岩の見学」、10/27（日）、事前申込制、参加費500円、参加者10名、講師：奥村よほ子氏（佐野市葛生化石館）
- ・アウトリーチ巡検「逗子市と鎌倉市の地質・地形観察」、2025/2/8（土）、事前申込制、参加費2,000円、参加者20名、講師：宇都宮正志会員（産業技術総合研究所）・野崎篤会員（平塚市博物館）

②学生・若手会員向けの実習・巡検

- ・学生・若手会員向け「地質調査の基礎講座」－城ヶ島巡検－、神奈川県三浦市城ヶ島で野外観察・調査（6/8（土））、露頭柱状図作成など（6/9（日）横須賀市産業交流プラザ第一会議室）、事前申込制、参加費：一般会員4,000円、学生会員（若手会員巡検参加費補助適用額）：1,500円、非会員一般5,000円、非会員学生3,000円、参加者7名（一般会員1名、学生会員2名、非会員一般1名、非会員学生3名）

- ・清澄フィールドキャンプ（東京大学千葉演習林、京都大学との共同実施）、8/19（月）～8/24（土）、事前申込制、参加費：学生会員（若手会員巡検参加費補助適用額）：28,250円、非会員一般60,000円、非会員学生45,000円、参加者4名（学生会員4名、いずれも本行事の参加を契機に新入会）

③講演会・シンポジウムなど（ハイブリッド形式）

- ・総会講演会、4/20（土）14:00～16:45、北とびあ7階第2研修室（Zoomによるハイブリッド形式）、共催：一般社団法人関東地質調査業協会、参加費無料、事前申込制、参加者86名（会場26名、オンライン60名）、講師：向山 栄会員（元関東支部長、

国際航業（株）」、「デジタル詳細地形データを用地表面変位計測で見る地震災害」

・講演会「県の石ー東京の岩石・鉱物・化石ー」, 11/10（日）13:00-16:00, 早稲田大学早稲田キャンパス6号館001教室, 事前申込制, 参加費:（現地）資料代500円（高校生以下は無料配布）,（オンライン）無料, 参加者: 75名（現地32名, オンライン43名）, 講師: 石塚 治会員（産業技術総合研究所）,「東京都の石と鉱物-小笠原諸島の無人岩とその地質学的意義」, 守屋和佳会員（早稲田大学教育・総合科学学術院）,「東京都の化石「トウキョウホタテ」と早稲田大学」

・サイエンスカフェ「地震がつくる大地〜隆起でできた日本列島〜」, 2025/1/12（日）15:00-16:45, バルギービール アグリオ, 参加費: 2,000円+1ドリンク, 事前申込制（集客サイトPeatixを利用）, 参加者19名, ファシリテーター: 岡山悠子氏（科博SCA）, 講師: 穴倉正展会員（産業技術総合研究所）

④ その他: 本部行事（生涯教育委員会主催）街中ジオ散歩への協力。

4. 支部顕彰（支部功労賞選考委員長 山崎晴雄）: 支部功労賞1件, 向山栄会員に授与した。

＜中部支部＞

1. 支部体制

支部長: 道林克禎（名古屋大学）, 幹事: 林誠司（名古屋大学）, 事務局幹事: 高橋聡（名古屋大学）, 県担当幹事: 高橋聡（愛知県, 名古屋大学）, 大谷具幸（岐阜県, 岐阜大学）, 平内健一（静岡県, 静岡大学）, 福地龍郎（山梨県, 山梨大学）, 常盤哲也（長野県, 信州大学）, 小林健太（新潟県, 新潟大学）, 大藤 茂（富山県, 富山大学）, 森下知晃（石川県, 金沢大学）, 西 弘嗣（福井県, 福井県立大学）

2. 2024年中部支部年会は富山大学五福キャンパスで以下のイベントを開催した。

①支部総会・幹事会, 研究発表会など（6/22（土））

・中部支部総会: 2023年度活動報告, 次年度開催県（静岡県）の決定, 中部支部研究発表会の講演要旨を公開し, 引用可とすることを決議。（出席者22名, 議決権行使14名, 委任状27名）

・支部幹事会: 中部支部での「地質の日」イベントと学生ポスター発表賞について検討した。（出席者8名）

・シンポジウム:「令和6年能登半島地震とその被害」（参加者76名）

・個人講演: 口頭発表2件, ポスター発表18件。

②巡検（6/23（日））

・能登半島地震に伴う地変の視察（案内者: 安江健一会員, 立石 良会員, 大藤 茂会員, 参加者38名）

＜近畿支部＞

1. 地球科学講演会「日本列島の起源と大和構造線」, 5/11（土）14:00-16:00, 大阪市立自然史博物館ホール・ハイブリッド開催, 会場聴講149名, オンライン聴講124名, 見逃し配信聴講9147名（6/16まで実施）, 講師: 磯崎行雄会員（東京大学名誉教授, 元日本地質学会会長）, 共催: 大阪市立自然史博物館・地学団体研究会大阪支部。

＜四国支部＞

1. 地質の日行事: 石の魅力大発見!〜見て・触って・知ってみよう〜, 主催: 愛媛大学理工学研究科地球科学分野院生会, 共催: 日本地質学会四国支部

・展示コーナー: 5/7（火）〜6/1（土）, 愛媛大学ミュージアム多目的室。

・岩石・鉱物探しイベント: 5/11（土）, 愛媛大学ミュージアムオープンテラス。

2. 2024年度日本地質学会四国支部総会・講演会, 12/7（土）13:00-17:30, 会場: 徳島大学工業会館2Fメモリアルホール, 講演会参加者54名。

【一般講演】口頭: 8件（学生表彰対象7件、優秀講演賞2件）, ポスター: 19件（学生表彰対象18件、最優秀ポスター賞1件、優秀ポスター賞3件）

【支部総会】①2024年度決算, ②2025年度予算, ③「地質の日」特別イベント「化石発掘体験〜君も今日から化石博士」, 主催: 愛媛大学理学部地学コース（2025/5/10開催予定）への四国支部の共催を承認した。

3. 幹事会: 9/20（金）〜9/30（月）メール会議, 12/7（土）12:40-13:00 対面会議

＜西日本支部＞

1. 「地質の日」企画 身近に知る「くまもとの大地」（共催）, 5/12（日）, 熊本県環境センター（熊本県水俣市）。

2. 山口大学理学部「サイエンスワールド2024 〜どうして?たのしい!ようこそ科学の世界へ〜」（後援）, 10/20（日）, 山口大学吉田キャンパス, 全25企画, 学生が運営・企画・実演する, 参加者1,115名。

3. 西日本支部令和6年度総会・第175回例会, 2025/3/1（土）, 北九州市立自然史・歴史博物館, 参加者52名。

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項
※委員会委員, 講師・発表者等, 会員氏名の敬称略。

1) 理事会議長・副議長の選出

議長: 高野 修, 副議長: 野田 篤

2) 会長＝代表理事・副会長の選出

会長＝代表理事: 山路 敦, 副会長: 杉田律子・星 博幸

3) 執行理事の選出, 部会長の選出（※筆頭者が部会長）, 原案通り選出された。

・常務理事: 亀高正男, 副常務理事: 内野隆之（社会貢献部会兼務）

・運営財政部会: 加藤猛士・細矢卓志

・広報部会: 坂口有人（社会貢献部会兼務）・松田達生・内尾優子・大坪 誠（社会貢献部会兼務）

・学術研究部会: 辻森 樹（編集出版部会兼務）・尾上哲治・高嶋礼詩・山口飛鳥

・編集出版部会: 小宮 剛

・社会貢献部会: 矢部 淳・岩井雅夫

4) 新年度各種委員会委員の承認。→委員会一覧は学会HPを参照。

5) Island Arc誌の投稿システムのプラットフォームがSchlorOneからREXへ変更。それに伴い, 査読システムも変更となった。

6) 日本記念日協会より「地質の日」の現況確認（5年ごと）にたいし, 登録維持のための更新手続きを行った。

7) 防災学術連携体「令和6年能登半島地震・7ヶ月報告会」（7/30, オンライン開催）について, 地質学会からの発表者として会員1名推薦し登録。発表者: 井上卓彦（産総研）, 「2024年能登半島地震に関わる海域断層の分布と変異」。

8) 自然史科学連合, JpGUからの科研費増額に関する要望書について, 各加盟学協会への協力要請があり, 賛同した。

9) 学術大会会期前に配布の学術大会関連プレスリリース資料のうち, 「特筆すべき研究成果」は廃止した。その他（学術大会の案内, 普及・教育イベントの案内, 各セッションのハイライト）の記事は従来通りプレスリリース資料として配布する。

10) 地学オリンピック日本委員会より問題作成者の推薦依頼があり, 会員2名を推薦した。

11) JpGUダイバーシティ推進委員会より委員選出依頼があり, 会員1名を推薦: 堀 利栄（愛媛大学）。

12) 各賞選考規則および各賞選考委員会規則の一部改正を承認。

【各賞選考規則】①推薦文の文字数を「400字以内」としている賞を「800字以内」に変更。③5条3）項, 「国際賞」を「都城秋穂賞」へ修正。

【各賞選考委員会規則】①役職指定に関する記載を削除。②委員は全て理事会推薦とし, 人数は16名から15名に変更。

両規則からIsland Arc Award（2023年度より廃止）に関する記載を削除。条文の繰り上げ。

13) 各賞選考委員会委員（15名）の選出を承認。委員長: 沢田 健（理事）。

14) 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改正および巡検案内書に関する細則案を承認。

→ 地質学雑誌電子版投稿編集出版規則（現行規則: 学会HP）を参照。

15) 2024年度「京都賞」受賞のPaul Hoffman博士の紹介記事（特別寄稿）を地質学雑誌に掲載した（執筆者: 磯崎行雄）。論文タイトル: 先カンブリア時代を踏破する: 2024年「京都賞」受賞者Paul F. Hoffman博士の地質学的挑戦。地質学雑誌, 130（1）, p.393-400。

16) 日本学術会議より, 提言「未来の学術振興構想（2023年版）」に関するアンケート調査への協力依頼にたいし回答した。

17) 日本神経科学学会から雇止めに関するアンケート協力依頼があり, geo-Flashで会員

へ周知した。

18) IGC韓国大会会期中に開催のIUGS会合にて、雲仙・喜界島が地質遺産に登録されたことなど有益な情報を会員へ周知するため、IUGU分科会委員長の掛川武氏（東北大学）に報告記事を執筆依頼し、News記事：学協会・研究会報告へ掲載した（News誌Vol.28, No.1（2025年1月号））。

19) 日本地球惑星科学連合より、学協会長会議の幹事会再任依頼があり、承諾した（山路敦会長、任期1年）。

20) 地球惑星連合の2025年プログラム委員の推薦：（正）宇野正起（東京大学）／（副）野々垣進（産総研）

21) 地球・資源分野JABEE委員会の委員交代を承認。10/1からの新委員：向吉秀樹（島根大学）

22) 男女共同参画学協会連絡会からの退会を承認。第23期からの正式加盟を辞退した。今後は日本地球惑星科学連合を通じて情報交換・意見集約する。

23) 熊本大会の巡検コース案（計9コース）を承認。プレ、ポスト日程、アウトリーチ巡検も含む。

24) 2026年以降の学術大会開催地は次の通り。

2026年 中部支部：（会期）2026/9/13（日）～15（火）、金沢大学（実行委員長：長谷川卓、事務局：森下知見、巡検担当：ロバートジェンキンズ・水上知行、巡検案内書編集委員長：大藤 茂）。

2027年 関東支部：会期未定、つくば国際会議場（実行委員長：氏家恒太郎）。

25) 各支部、各専門部会、若手会員など、特定グループの所属会員・登録会員にたいして、会員管理システムからメール配信が行えるよう整備し、運用開始した。

26) 地質技術者教育委員会より提案の「第5回JABEEシンポジウム」（2025/3/2（日）オンライン開催）を承認。地学教育委員会と連携して運営する。

27) 防災学術連携体シンポジウム「阪神・淡路大震災30年、社会と科学の新たな関係」（2025/17日（火）オンライン開催）について、地質学会からの発表者として会員1名を推薦し登録。

発表者：氏家恒太郎（筑波大学）、【セッション4】学協会発表 阪神淡路大震災 30 年に寄せてー、「地震発生プロセス・発生メカニズム解明に向けた地質学会の活動と貢献」。

28) （独）大学改革支援・学位授与機構から要請により、専門委員（国立大学教育研究評価委員会専門委員および機関別認証評価委員会）の候補者として会員3名を推薦した。

29) 2025年度総会の日程：2025/6/7（土）14時から、オンラインで実施することを承認。

30) Island Arc編集委員長の交代を承認。新委員長：長谷川 卓（金沢大学）、市山祐司（千葉大学）。

31) 名誉会員推薦委員会委員の選出を承認。委員長（星博幸副会長：1名）執行理事会選

出の各階層（官公庁、小中高教員、会社、大学）別委員（4名）、職責委員（各支部長7名）、理事会推薦の委員（1名）、合計13名の委員を選出。名誉会員推薦委員会規則に従った新しい推薦書式を用意した。

32) 若手活動運営委員会運営の地質系業界オンライン交流会の実施（2025/2/14（金））を決定。参加業界（講演者）：産業技術総合研究所（村岡やよい）、蔵王ジオパーク推進協議会（北川 桐香）、石油資源開発株式会社（相崎翔太氏）、川崎地質株式会社（土井信寛）、株式会社マリン・ワーク・ジャパン（四宮裕太氏）。

33) 2025年の「地質の日」に、オンライン一般講演会の実施（2025/5/10（土））を決定。フォッサマグナミュージアムにてライマン来日150年を記念した講演（ハイブリッド開催）とナウマンゆかりの地（3機関）を結びリー配信を実施する。

講師：矢島道子（東京都立大学非常勤講師）、森 浩嗣氏（佐川地質館）、佐々木猛智（東京大学総合研究博物館）、臼井里佳氏（伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局）

34) 街中ジオ散歩を2025/5/11（日）に開催（幕張海岸）。案内者：千葉県立中央博物館の山中 蛍氏、高橋直樹。

35) 若手活動運営委員会より、会員管理システムからのメール配信システムを活用し、若手会員向けのメルマガ配信の提案があり、承認。

36) シニア会員にたいしアンケート調査を実施（メール連絡：約560名、ハガキ郵送（メールアドレス登録なし）：約300名、回答期限2025年2月末日）、243名から回答があった。

37) 2025年度山田科学財団研究助成について、1件の推薦を承認。

38) 各賞選考委員会の下に各賞選考検討委員会を設置し（委員は、前、現会長、執行理事会より推薦された8名の委員により構成）、学会賞、都城秋穂賞、小澤儀明賞、欄山雅則賞の諮問をした。

39) オンラインストレージ（共有サーバー：TEAMS）の導入を承認。各種委員会、専門部会などからの申請に応じて順次開設する。

40) 学術大会の参加登録費の改定を承認。各有料参加種別の参加費を増額する。学部学生と名誉会員は参加費無料（据え置き）。

41) 学会オリジナルフィールドノートの増刷について、3,000部増刷を承認。原材料費高騰のため販売価格の改定も承認（1,000円～1,100円/冊の見込み）。一定の仕様を維持しつつ紙質等を見直しする。

42) 日本ジオパーク学術支援連合（JGASU）への学会選出委員について、ジオパーク支援委員会の天野一男委員長を選出（任期2年：2025/5/1～2027/4/30）。

43) 地質学雑誌のデジタルアーカイブ化に関して、1956年～1998年発行の論文のテキスト化およびアーカイブ化を行い、J-STAGE上への整備を承認（対象は①②に分類）。

①1956～1983年の論文：英語アブストラクト

②1984～1998年の論文：英語アブストラクトと日本語抄録

44) 地質技術者教育委員会より、「2023年度卒業生・修了生対象 地質系若手人材動向調査結果」をNews誌3月号に掲載した。

45) 地球・資源分野JABEE委員会の事務局機能の引き継ぎを承認。現在、資源・素材学会が引き受けているJABEE委員会の事務局業務を地質学会事務局に移行する（業務委託契約の予定）。2025年度は引き継ぎ期間とし、2026年度より実務開始予定。

46) 第16回惑星地球フォトコンテストの審査結果（応募総数432点）：最優秀賞1点、優秀賞2点、ジオパーク賞1点、日本地質学会長賞1点、ジオ鉄賞1点、スマホ賞1点、大学生・大学院生賞1点、入選4点、佳作10点を選出。

47) 各種委員会委員追加、交代の承認。

①若手活動運営委員会（委員の追加）：都丸大河（東北大学）、加藤広大（（株）KAN S Oテクノス）。任期：2025/4/19～2026/6総会まで。

②地質学雑誌編集委員会（委員の交代）：（新任）乾 睦子（国士館大学）。任期：2025/4/19～2026/6総会まで。（退任）大友幸子（山形大学）

48) 地質標準化委員会、地質学雑誌編集委員会、企画出版委員会、生涯教育委員会の委員会規則の整理を行い、制定を承認。→制定された各委員会規則は委員会一覧（学会HP）参照。

49) 大学入試センターにたいし「令和7年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書（2025/4/25付）」を提出。

50) 次の89名の会員を永年会員として顕彰することとした。

70年顕彰者：2名（1954年度入会者：2024年度会費まで納入済）後藤博弥・仲井 豊

60年顕彰者：6名（1964年度入会者：2024年度会費まで納入済）小澤智生・加瀬靖之・神谷英利・小勝幸夫・菅野耕三・早津賢二

50年顕彰者：42名（1974年度入会者：2024年度会費まで納入済）会田信行・浅川行雄・足立勝治・足立久男・大久保 進・大塚富男・岡本正也・加藤芳郎・鎌田耕太郎・川原和博・厩沢好博・木村 学・熊田政弘・公文富士夫・境垣内隆雄・坂本 治・嵯峨山 積・佐藤悦郎・佐野弘好・鈴木 哲・高須 晃・谷岡誠一・谷口純造・檀原 徹・鳥居 孝

・長井孝一・中村盛之・中村由克・西ヶ谷修・野村律夫・濱田 治・原山 智・藤井光男・藤崎克博・藤本勝彦・古野邦雄・保科裕・前田仁一郎・益子 保・松本仁美・山崎孝成・吉水一郎

40年顕彰者：39名（1984年度入会者：2024年度会費まで納入済）五十嵐厚夫・池田 剛・岩内明子・岩田昌寿・氏原 温・海野芳聖・笠原 茂・加藤 明・金子 誓・亀尾浩司・木谷啓二・栗田裕司・五島 昇・金 秀俊・坂本 泉・佐々木和彦・菅原 宏・杉山輝芳・関場清隆・竹下浩征・田中里志・田上洋人・中村晶平・七山 太・橋戸敬一郎・西

琢郎・布川嘉英・福田修武・藤田耕二・藤縄明彦・古澤 明・古谷茂継・細山光也・堀利栄・町田隆史・松木宏彰・松村秀喜・水垣桂子・吉村実義

51) 研究奨励金選考委員会より、2025年度研究奨励金支給対象者の報告があり承認。次の4名の会員に支給する。

高橋恒佑 (東北大学), 古庄航輝 (茨城大学), 鈴木捷太 (北海道大学), 福井堂子 (愛媛大学)

52) 2024年度事業実績報告・決算案を承認した。【1号議案】

53) 2024年度事業計画および2025年度予算案を承認した。【2号議案, 3号議案】

54) 各賞選考にかかわる運営規則の変更を承認。【4号議案】

55) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞授賞者を承認した。授賞理由は1号議案資料03 参照)

・日本地質学会都城秋穂賞 (1件)
ALİ MEHMET CELÂL ŞENGÖR (ジェラル・シェングオール) (イスタンブール工科大学)

対象研究テーマ: プレートテクトニクスの造山運動論の体系化とユーラシア大陸形成史の研究

・日本地質学会小澤儀明賞 (1件)
松本廣直 (筑波大学)

対象研究テーマ: 物質的・地球化学的情報を組み合わせた超巨大海台形成史の復元と地球環境変動との関連解明

・日本地質学会論文賞 (1件)

対象論文: 別所孝範・鈴木博之・山本俊哉・檀原 徹・岩野英樹・平田岳史, 2024, 紀伊半島南部海岸地域の田子含角礫泥岩層「サラシ首層」の時代と成因について。地質学雑誌, 130 (1), 35-54, DOI: 10.5575/geosoc.2023.0034.

対象論文: 亀高正男・菅森義晃・石田直人・松井和夫・岸本弘樹・梅田孝行・東 篤義・山根 博・杉森辰次・魚住誠司・永田高弘・松場康二・桑島靖枝・岩森暁如・金谷賢生, 2019, 舞鶴-小浜地域の地質: 超丹波帯・丹波帯の地質構造発達史と上林川断層の横ずれインバージョン。地質学雑誌, 125 (11), 793-820.

・日本地質学会小藤文次郎賞 (1件)
岩森 光 (東京大学地震研究所)

対象論文: Iwamori, H., Ueki, K., Hoshide, T., Sakuma, H., Ichiki, M., Watanabe, T., Nakamura, M., Nakamura, H., Nishizawa, T., Nakao, A., Ogawa, Y., Kuwatani, T., Nagata, K., Okada, T., Takahashi, E., 2021, Simultaneous analysis of seismic velocity and electrical conductivity in the crust and the uppermost mantle: a forward model and inversion test based on grid search. Journal of Geophysical Research:Solid Earth 126, e2021JB022307.

・日本地質学会研究奨励賞 (1件)
米岡佳弥 (産業技術総合研究所地質情報研究

部門)
対象論文: 米岡佳弥・坂田健太郎・本郷美佐緒, 中里裕臣, 中澤 努, 2024, 下総台地北西部の地下に分布する中部更新統下総層群清川層の層相・物性の側方変化。地質学雑誌, 130 (1), 223-238.

・日本地質学会フィールドノートワーク賞 (1件)

松山和樹 (名古屋大学大学院環境学研究科)
対象論文: Matsuyama, K. and Michibayashi, K., 2024, Structural evolution of the Horoman peridotite complex in conjunction with the formation of the Hidaka Metamorphic Belt, Hokkaido. Tectonophysics 892, 230535.

※学会賞, 欄山雅則賞はいずれも該当なし。
56) 6月8日開催予定の総会議案の承認。

57) 学会WEBサイトのリニューアルについて, テストサイトが納品された。

58) 関東支部主催の城ヶ島巡検 (2025/5/31 (土) -6/1 (日)) および清澄フィールドキャンプ

(2025/8/25 (月) -30 (土)) について, 学生会員への参加費補助適用の申請があり, 承認。

59) 2024年度内にご寄付いただいた方 (方々) は次の通り。謹んで篤志を受けることとした。

石賀裕明 (故人ご遺族より)。

2025年度事業計画骨子

地球惑星科学系の中では国内最大規模を誇る学会として, 地質学および関連学問分野の進化・発展に寄与するという本会の責務を全うするためには, 豊かなダイバーシティのもと学術活動を進めると同時に, 健全な経営を行う必要がある。このため以下に示す事業を実施する。

(1. 学術大会)

学会活動の中核をなす学術大会は, 会員の研究成果発表・情報交換・人脈拡大の場であるとともに, 学問の発展に寄与する場である。2025年度は第132年学術大会を, 熊本大学 (熊本市) を会場として9月14日 (日) ~ 16日 (火) に開催する。

(2. 学術研究活動)

日本の研究を世界に発信するとともに, 支部との連携を強化して研究発表機会の拡充や人的交流の活性化, 野外調査技術の若い世代への伝承などを図る。また, 学術大会における研究発表のみならず, ショートコースを年数回開催し, 会員・非会員の誰もがさまざまな分野の基礎知識や最新知見を学べる場を提供する。ウェブサイトの大幅改修やSNSの利用により, そうした活動を援助する。これらの活動を通じて会員の満足度を高め, 若手会員の定着とシニア会員の退会抑制を図る。さ

らに, 本会が主体となって国内外の関連学術団体との連携を取りつつ, 大型研究等の立案・推進に努め, 地質学の継続的發展を目指す。

(3. 出版活動)

地質学雑誌およびIsland Arc誌における優れた論文の確保と安定した出版を目指し, 年会等で発表された優れた研究をIsland Arcや地質学雑誌で円滑に論文として公表することを促進する。その結果としてダウンロード数および被引用数が増加することを期待するとともに, 新規の特集号の企画も積極的に推進する。また投稿から掲載までの時間短縮に向け, 不斷の努力を行う。

地質学雑誌の出版については, 中期的な出版・財務戦略を踏まえ, 安定した出版体制を構築する。Island Arcについては, Wiley社と協力して存在感と注目度を高めるよう努力する。また新しい電子投稿システムを宣伝し, 投稿数の増加を推進する。

公式広報誌「ジオルジュ」については, ジオパークや地学オリンピック, 博物館, スポンサー等との連携と財務構造のさらなる改善を進め, 安定的な発行を維持しつつ, さらに市民への広範な広報に努める。

J-Stageで公開されている地質学雑誌掲載論文は会員諸氏の苦闘の成果であり, また, 本学会が社会に提供する貴重な知的財産である。ところが2000年前後より前の論文は, 近年の論文と違ってデジタル化が不完全なため検索にかりにくく, 真価を発揮しにくい状況にある。この問題について, 解決への道筋をつける。

(4. 地質災害対応)

地質災害の発生に迅速に対応する体制を維持し, 地質学的観点からの緊急調査・研究を推進するとともに, 学会公式ウェブサイトや地質災害ポータルからの情報発信に努める。

専門部会・支部, および防災学術連携体等における学会活動を通じて, 災害に関する地質学的知識や情報を社会へ提供・発信する。また, 地域の地形・地質特性や自然条件に根ざした地質災害の理解と防災・減災についての普及・啓発に努める。

(5. 広報・普及活動)

社会における本学会の認知度向上と新規会員獲得に資するよう, 学会公式ウェブサイト (HP) の抜本的な刷新作業に着手し, 必要な情報を探しやすく, 分かりやすい形で発信できるHPを構築する。加えて, 学会公式SNSの本格運用により社会への速報性を高める。これらの媒体を利用して, 学術大会やショートコース, 講演会, 各種出版物, ウェブ教材, フォトコンテストなどの各種学会活動や地質災害に関する情報発信について, これまで以上に効果的・効率的に情報発信を行う。研究機関・大学・博物館・ジオパーク等と連携し, 地質情報展や「地質の日」事業, その

他普及イベントの開催を通じて、市民・地域レベルの啓蒙活動を推進する。「県の石」の普及を継続的にすすめる。

(6. 社会貢献)

国際層序委員会の国際年代層序表日本語版を随時更新するとともに、JISを含めた地質標準の普及を図る。地質学が社会の持続的発展に資することをプレスリリースや学会声明等をタイムリーに発信することで周知し、社会的プレゼンスの向上に努めると同時に産・官・学の連携を推進する。地質技術者に対する継続教育として、高等教育やCPD発行などの支援やサービスを継続して実施し、さらに発展させる。ジオパークについては、日本ジオパーク学術支援連合の活動を通じて学術面からの支援を行う。日本ジオパークネットワークおよび日本ジオパーク委員会への協力も引き続き行う。

(7. 地学教育)

大学入試共通テスト(本試験)の地学関連科目の「地学基礎」および「地学」の問題を検討し、改善等が必要であれば意見書として取り纏め、入試センターに送付するとともに公表する。次世代地質学者の育成および将来の新規会員獲得に資するよう、小中高校生を対象とした研究成果の発表の場として、学術大会において引き続きジュニアセッションを実施する。地学オリンピック、地震火山地質こどもサマースクール等への支援も継続して行う。「学生のための地質系業界説明会」や「地質系若手のためのキャリアビジョン誌」の発行を通して、地質系業界への門戸を広げる活動を継続する。

(8. 国際連携)

学術交流協定を締結している海外の地質系学協会との間において、より実質的な学術活動の連携を図る。

(9. 会員サービス・学会運営)

新規会員獲得および学会定着率を向上させるため、学生・院生会費の減額措置を継続し、また、就職支援、地質技術者の継続的な専門教育(CPD)に連携した地域型講演会・ワークショップ等の従来型事業を継続して実施し、若手研究者・技術者およびその予備軍である学生・院生会員の育成のための新企画や、若手活動運営委員会のもと、若手巡検・研究集会やオンライン交流会を開催し、若手会員同士の分野横断的な議論と交流の促進、若手会員層の拡充を図る。さらに、野外調査をベースとした若手地質研究者の育成事業を通じて、野外地質学の継承・発展を図るとともに、若手会員層の拡充に努める。

本会会員に占めるシニア層の割合はほぼ1/3に達するが、この層へのサービスが後回しになっていた。そこで、シニア会員の活躍の場について検討を進め、そうした場を提供し、また、満足度を高め、会員数の減少を緩

やかにするよう努める。

学会組織については、各組織の業務内容・責任を明確化させる。併せて、学会活動の運営の基本となる定款・規則類の整理・整備を行う。学会事務局体制については、業務の整理・統合と効率化を一層進めることによって、事務局業務の安定化をはかる。昨年度導入された新たな会員システムについては、会員にさらなる周知をし、業務の合理化を図る。さらにダイバーシティ確保の観点から、学会運営に携わる委員会等における若手会員と女性会員の増加に努める。また、年度後半の選挙では広報を強化し、投票率の改善に努める。

2025年度 日本地質学会各賞授賞理由

日本地質学会都城秋穂賞



授賞者: Ali Mehmet Celâl Şengör氏(イスタンブール工科大学地質工学科)
対象研究テーマ: プレートテクトニクス的造山運動論の体系化とユーラシ

ア大陸形成史の研究

トルコの地質学者Ali Mehmet Celâl Şengör(ジェラル・シェンゲオール)氏は、多言語能力を駆使して世界の様々な地域の18世紀以来の造山論に関する大量のレビューを学生時代から進めてきた。その中でプレートテクトニクス出現前後の概念的転換パターンを明らかにし、また、現代的な造山運動論の体系化を試みてきた。これまでに300編以上の学術論文を公表し、中には100ページを超える大作も複数含まれる。地中海から中央アジアを経て極東アジアにいたるユーラシア大陸全体の地質を視野に入れた氏の造山帯研究は、世界のテクトニクスの研究者に大きな影響を与えた。中でも、極東アジアの地質総括においては、日本列島の地質の詳細に注目して、東アジアで最も詳しく研究された造山帯の例として日本の地質を世界に紹介した。こうした広視野からの研究は、プレートテクトニクスを踏まえつつ、日本列島の地質をアジア大陸の地質との関連の中にどのように位置付けるのかという点で、日本人研究者にも深い洞察を促した。

シェンゲオール氏はニューヨーク州立大学においてJ.F. Dewey, K.C.A. Burkeそして都城秋穂教授らの指導のもと博士号を取得した後、母国のイスタンブール工科大学地質工学科の教授として1981年から2022年の退職まで研究と教育を精力的に進めた(現在は名誉教授)。都城氏とは1979年の岩波講座地球科学の『造山運動』とその英語版教科書“Orogeny”を共同執筆した。古典的な地向斜論と比較しつつ、プレートテクトニクスの枠組みでの造山論を解説した同書は、その後ドイツ語、ロシア語、また中国語にも翻訳出版され、世界中で広く読まれており、わが国でもプレートテクトニクス観に基づく地質学が定着する礎石の一つとなった。これらの突出した業績に基づき、シェンゲオール氏は世界の主要学会から多数の国際的な賞(欧州地球科学連合のArthur Holmesメダルなど)を授与されており、自身の複数回の来日を含め、日本の地質学界とも馴染みが深い。

以上の地質学および科学史研究への多大な貢献、および日本の地質学界への貢献は、日本地質学会都城秋穂賞にふさわしいものと評価される。

Citation for the 2025 Akiho Miyashiro Award

Plate tectonics-based studies on orogeny and geotectonic history of Eurasia

Since his undergraduate days, the Turkish geologist, Dr. Ali Mehmet Celâl Şengör, has conducted outstanding historical reviews of orogenic studies in the world from the 18th century to the present, utilizing his exceptionally gifted multilingual abilities. He clarified the pattern of conceptual change in geosciences during the emergence of plate tectonics and re-synthesized orogenic processes from his viewpoint. He has published more than 300 scientific works, including some with over 100 printed pages. These studies, which cover diverse geological aspects of the entire Eurasian continent from the Mediterranean area to Far East Asia via the vastness of Central Asia, have greatly influenced studies of tectonics by geologists throughout the world. He also introduced the latest advances in geological/orogenic studies in Japan to the rest of the world, emphasizing their significance as the best analyzed example of a Phanerozoic orogenic belt in East Asia. His research on global aspects of orogeny encouraged Japanese geologists to reevaluate the geology of Japan with respect to the East Asian orogenic framework.

After receiving his Ph.D. from the State University of New York at Albany under the supervision of Profs. J.F. Dewey, K.C.A. Burke, and A. Miyashiro, Dr. Şengör continued research and taught as a professor at the Istanbul Technical University (ITU) from 1981 until his retirement in 2022. He is now professor emeritus at ITU. He notably co-authored a textbook "Orogeny" (published in 1979 by Iwanami in Japanese and in 1982 by Wiley in English) with Prof. Miyashiro, in which the history of pre-plate tectonics orogenic concepts is explained in the first chapter as context for the subsequent explanations of plate tectonics-based orogeny. This book, which was later translated into German, Russian, and Chinese, became a worldwide best-seller that enlightened numerous geologists, including those in Japan. Due to his prominent achievements, he has been honored with multiple international awards/prizes (e.g. Arthur Holmes Medal from European Geosciences Union) and invited lectures. His previous visits to Japan also deepened his interactions with the Japanese geoscience community.

His overall contributions, not only to geology and the related history of science

in general, but also to the geoscience community in Japan, are highly worthy of recognition through the award of the Akiho Miyashiro Award of the Geological Society of Japan.

日本地質学会小澤儀明賞



授賞者：松本廣直 会員
(筑波大学生命環境系)
対象研究テーマ：物質的・地球化学的情報を組み合わせた超巨大海台形成史の復元と地球環境変動との関連解明

松本廣直会員は、堆積岩に記録されたオスミウム・鉛・炭素同位体の分析を行い、高時間解像度の同位体層序を作り上げるとともに、火山灰や鉱物種の変化といった物質的な解析を組み合わせることで、巨大火成岩区の活動と海洋無酸素事象の関連を研究した。そして、過去2億年間で最も温暖であった、白亜紀を中心とした地球表層と地球深部とのリンクに関する課題において顕著な成果を挙げた。

顕生累代最大の巨大火成岩区であるオントンジャワ海台では、白亜紀に大噴火が起こった。これは地球表層環境への甚大な影響という点で注目されてきたテーマであったが、噴火年代などに未解決の課題があった。松本会員は、まず、この噴火史の復元に取り組んだ。太平洋の白亜系遠洋堆積物に含まれる火山灰層の化学分析と年代測定を行い、OAE (海洋無酸素事象) 1aの最初期にオントンジャワ海台において爆発的な噴火が発生した事実を明確に示した。堆積岩のオスミウム・炭素同位体比の分析結果より、この噴火活動で、大量の揮発性物質が放出され、海洋酸性化や貧酸素化につながったことを明らかにした。さらに、炭酸塩堆積物中に鉄が濃集していることを発見し、オントンジャワ海台の噴火活動に伴い、長期間にわたり海洋中に鉄が供給されたことを示唆した。これらの成果は、オントンジャワ海台を代表例として、大規模海台形成における噴火様式の変化と地球環境への影響を、これまでにない高時間解像度及び広大な空間スケールで提示する重要な成果となった。

松本会員は陸成層を含む古環境復元も行っており、過去の地球を理解する研究を基に、固体地球と地球表層との関連に関する普遍性を追求する課題へとレベルを向上させている。イタリア、ベルギー、ブラジル、中国などとの国際的な研究連携、宇宙起源物質、微化石、モデリングなど関連分野との共同研究も発展させている。松本会員は若手のリーダーとしての役割をきちんと自覚し、国内外の学会活動にも貢献している。以上のように、松本会員の卓越した業績と将来性は、地質学会小澤賞に値するものである。

日本地質学会小藤文次郎賞



授賞者：岩森 光 (東京大学地震研究所)
対象論文：Iwamori, H., Ueki, K., Hoshide, T., Sakuma, H., Ichiki, M., Watanabe, T., Nakamura, M.,

Nakamura, H., Nishizawa, T., Nakao, A., Ogawa, Y., Kuwatani, T., Nagata, K., Okada, T., Takahashi, E., 2021, Simultaneous analysis of seismic velocity and electrical conductivity in the crust and the uppermost mantle: a forward model and inversion test based on grid search. *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 126, e2021JB022307

地球内部の水溶液やマグマは、地震、火山活動、地殻変動や地球全体の進化に重要な役割を担うと考えられているにもかかわらず、従来の解析方法 (例えば、地震波速度あるいは電気伝導度のみの解析) では、これらの地球内部に存在する液相がどこにどれだけ存在するか、定性的にイメージすることが難しかった。特に、地震や火山活動の主な場である深さ60 km 程度までの領域は、岩石の種類が極めて多様であり、正確な理解のためには岩石と液相を同時に推定することが必要であった。岩森 光会員を中心とした研究グループは、地震波速度構造と電気伝導度構造を統合的に解析し、地殻と最上部マントルを構成する岩石に加えて、液相の種類、液相の量・アスペクト比・連結度を同時に推定し、地球内部の水溶液やマグマを定量的にとらえる手法を初めて開発した。その成果をまとめた本論文では、さまざまな組成の岩石、マグマ、水溶液についての実験的データと理論に基づき、それらの混合物性 (地震波速度と電気伝導度) を予測する数値モデルを発表した。さらに、この数値モデルを用いて、観測される地震波速度と電気伝導度から、岩石と液相の種類と量比などが求められることを示した。このような推定手法は国際的にも例がなく、今後本手法を実際の観測データに応用することにより、地殻とマントル最上部の構造イメージングが飛躍的に進むことが予想される。加えて、本研究による解析の高解像度化は、地震・火山活動の機構や地球進化の理解に資することが期待され、我が国に与えるインパクトは非常に大きい。

以上のことから、極めて独創的な発想を有している研究を主導した、本論文の筆頭著者である岩森 光会員は日本地質学会小藤文次郎賞に相応しいものと評価される。

日本地質学会論文賞 (1/2件)

対象論文：別所孝範・鈴木博之・山本俊哉・檀原 徹・岩野英樹・平田岳史，2024，紀伊半島南部海岸地域の田子含角礫泥岩層「サラシ首層」の時代と成因について，地質学雑誌，130，35-54.



田子含角礫泥岩層は，四万十帯に含まれ，様々な大きさの砂岩角礫を無秩序に含む泥岩からなる。紀伊半島南部の海岸沿いに露出し，差別的な浸食作用によって砂岩角礫の突起状の地形が発達している。その特異な形状から「サラシ首層」と呼ばれ，古くから地質学的に注目されてきた。この層の成因については，長年にわたり議論が続いており，大きく二つの説が提唱されてきた。一つは，泥火山やダイアビルにより形成されたとする説，もう一つは，海底土石流による堆積物とする説である。しかしながら，これらの説のどちらが正しいのか，本層の分布状態や含まれる砂岩礫の起源，さらに地層の形成年代についての情報が不足しており，未解決の課題として残されていた。本論文は，この「サラシ首層」の成因を明らかにすることを目的とし，過去の研究史を整理した上で，多角的な岩石学・年代学的手法を用いた詳細な分析が行われた。具体的には，累重様式の詳細な検討，砂岩組成・粒度組成分析，砂岩の放射年代測定，泥岩礫の放散化石年代が検討された。その結果，砂岩組成や放射年代のデータから，基質が四万十帯牟婁付加シーケンスに起源を持つことが判明し，「サラシ首層」に含まれる砂岩の異地性ブロックが，それよりも若い年代を示すことが明らかとなった。そして，これらの岩石学・年代学のデータと，累重様式および堆積構造の詳細な検討から，泥火山・ダイアビル説は否定され，前弧海盆内で隆起した付加体の崩壊によってもたらされた海底土石流堆積物であるとの結論が得られた。本論文の意義は，長年未解決であった「サラシ首層」の成因について，従来の仮説を包括的に検証し，新たな岩石学・年代学のデータをもとに結論を導いた点にある。複合的な手法を駆使し，未解決であった地質学の問題に対して重要な知見を提供した点でも，学術的に高く評価される。

以上のことから，本論文は日本地質学会論文賞に相応しいものと評価される。

日本地質学会論文賞 (2/2件)

対象論文：亀高正男・菅森義晃・石田直人・松井和夫・岸本弘樹・梅田孝行・東 篤義・山根 博・杉森辰次・魚住誠司・永田高弘・松場康二・桑島靖枝・岩森暁如・金谷賢生，2019，舞鶴一小浜地域の地質：超丹波帯・丹波帯の地質構造発達史と上林川断層の横ずれインバージョン，地質学雑誌，125，793-820.



本論文は，京都府舞鶴～福井県小浜地域の地質図を作成し，ペルム系～ジュラ系からなる舞鶴帯・超丹波帯・丹波帯の分布や地質構造を示すとともに，活断層である上林川断層の発達過程を解明したものである。地質図は南北約18 km，東西約40 kmの広範囲に及び，詳細な地表踏査や試料観察を基にした精緻な地質記載がなされている。産総研が整備している当該地域の地質図幅は作成された年代が古く，付加体地質学を考慮した地質図の公表が待たれていた。本論文では超丹波帯を3つ，丹波帯を5つの地質単元に区分し，それぞれの構造層序関係を示すとともに，褶曲や断層の形成順序を検討した。対象地域には超丹波帯付加体の模式地が含まれ，これまで不明な点が多かった同帯の全貌が初めて明らかにされた。また上林川断層について，地質図規模から露頭・標本・薄片規模までの様々なスケールでの検討をもとに，左横ずれから右横ずれにインバージョンしたことを示したことは，日本列島の活断層の形成要因に重要な示唆を与え，防災上の意義も大きい。一般に活断層調査は断層およびその近傍のトレンチあるいは露頭調査によって進められ，広域の地質調査まで及ばないことが多いが，本論文では超丹波帯・丹波帯といった基盤岩の広域の地質構造を精査することで，地質断層を再利用した横ずれインバージョンによる，活断層としての上林川断層の活動を明らかにした。本調査結果は，西南日本のペルム紀～ジュラ紀付加体が初生的には沈み込みに伴うパイルナップ構造をもって累重し，白亜紀以降にそれらを切断する内陸の断層活動によって再配列している様子を端的に表している。本

論文は，昨今減少傾向にある地道な野外地質学をベースにしたものであり，その中でも近年では類を見ない高い質の内容となっている。

以上のことから，本論文は日本地質学会論文賞に相応しいものと評価される。

日本地質学会研究奨励賞



授賞者：米岡佳弥 会員
(産業技術総合研究所地質情報研究部門)

対象論文：米岡佳弥，坂田健太郎，本郷美佐緒，中里裕臣，中澤 努，2024，下総台地北西部の

地下に分布する中部更新統下総群清川層の層相・物性の側方変化，地質学雑誌，130，223-238.

更新統下総群清川層（約20万年前の堆積物）は首都圏の台地の地下浅部に広く分布する浅海～陸成層で，側方に層相が大きく変化することが特徴である。本層が分布する一部地域では約14万年前の氷期に本層を侵食して谷が形成され，その谷を約12万年前の最終間氷期に堆積した軟弱な泥層からなる木下層が埋めている。このため，両層は非常に複雑な分布を呈しており，これらをきちんと区別することが課題となっていた。

著者らは清川層の層相が大きく変化する千葉県野田市でボーリング調査を行い，コアの層相，テフラ，花粉化石群集，物性を詳細に記載した。そして，清川層と木下層が花粉化石群集と物性の両面から区別できることを初めて指摘するとともに，既存ボーリングコアのデータと総合的に比較することで，千葉県北西部地域の清川層の分布を詳細に解明して本層堆積時に南側ほど海退が遅れていたことを示した。清川層とその上位にある軟弱な木下層としては揺れの特性が異なることから，地震工学的視点からも両者の区別は極めて重要で，これらの成果は，地質地盤の三次元解析に資するほか，非専門家による両層の容易な判別を可能にし，地盤リスク評価への応用も期待される。さらに，筆者らは同地域の清川層を構成する泥層が不透水層として汚染の侵入を阻むのに対し，上位の砂泥互層が透水層として地下水利用が盛んな一方，汚染に対して脆弱であるという特性を指摘し，首都圏の地下水利用や地質汚染調査の観点からも両層の層相変化の把握が重要であることを論じている。

従来，層序学・堆積学と地盤工学・地下水学は別々に議論されることが多かったが，本論文はこれらの分野間を結びつける極めて重要な研究である。したがって，この研究をリーダーとして推進し取りまとめた本論文の筆頭著者である米岡佳弥会員は研究奨励賞に値する。

以上のことから，米岡会員は日本地質学会研究奨励賞に相応しいものと評価される。

日本地質学会フィールドワーク賞



授賞者：松山和樹会員
(名古屋大学大学院環境
学研究科)

対象論文：Matsuyama,
K. and Michibayashi, K.,
2024, Structural
evolution of the

Horoman peridotite complex in conjunction
with the formation of the Hidaka
Metamorphic Belt, Hokkaido.
Tectonophysics 892, 230535.

日高変成帯の基底部に位置し、世界的にも
著名なアルプス型かんらん岩体である幌満か
んらん岩体では、2000年代初頭に変形組織の
多様性が報告された後、構造地質学的な研究
は停滞していた。そのため、同岩体の形成史
の解釈は岩石学的視点によるものが大半であ
り、変形時の運動像・造構環境や、周囲の日
高変成岩類との関係性も踏まえた包括的な解
釈が不足していた。本論文では、詳細な地質
図が既に存在する同岩体について、岩体内の
全ユニットにまたがる2本の主調査ルート
を設定した上で計画的な野外調査を行っている。
具体的には概ね南北に延びる2ルート全
体を網羅するように54試料を定方位で採取
し、うち52試料について電子線後方散乱回折
装置 (EBSD) によるファブリック解析を
実施している。そして、定方位試料から復元
した面構造・線構造の方位、それらに付随す
るかんらん石結晶の格子定向配列 (CPO) パ
ターン、及びそこから導かれる剪断センスを
地質図上にフィードバックし、複数の構造デ
ータに関する東西5km、南北10km規模の詳
細な分布図を描出した。結果、岩体の南部か
ら北部 (構造的な見かけ下位から上位) にか
けて支配的な剪断センスが逆転すること、及
びかんらん石のファブリックタイプについて
南部では含水条件で生じるEタイプ、北部で
はメルトの関与を示唆するAGタイプが卓越
することが明確化した。加えて、これらの情
報をもとに同岩体と日高変成岩類の変形史の
対比が行われた。これらの研究成果は、地質
図規模での系統的な定方位試料採取という、
フィールドワークにおける1つの作戦の有効
性を、室内外での豊富な仕事量によって具現
化した好例として評価できる。

以上のことから、本論文の筆頭著者である
松山和樹会員は日本地質学会フィールドワ
ーク賞に相応しいものと評価される。

2025年度永年会員 (50 年) 顕彰

1974 年度入会者、2024 年度会費まで納入済
会田信行・浅川行雄・足立勝治・足立久男・
大久保 進・大塚富男・岡本正也・加藤芳郎・
鎌田耕太郎・川原和博・鴈沢好博・木村 学・
熊田政弘・公文富士夫・境垣内隆雄・坂本
治・嵯峨山 積・佐藤悦郎・佐野弘好・鈴木
哲・高須 晃・谷口純造・檀原 徹・鳥居 孝・

長井孝一・中村盛之・中村由克・西ヶ谷 修・
野村律夫・濱田 治・原山 智・藤井光男・藤
崎克博・藤本勝彦・古野邦雄・保科 裕・前
田仁一郎・益子 保・松本仁美・山崎孝成・
吉水一郎、ほか1名 (42名、敬称略)



会田信行



足立久男



大久保 進



大塚富男



加藤芳郎



川原和博



公文富士夫



佐藤悦郎



鈴木 哲



檀原 徹



野村律夫



濱田 治



藤井光男



藤崎克博



藤本勝彦



保科 裕



前田仁一郎



益子 保



松本仁美

下仁田自然学校に所属して、跡倉ナツプを
追求しています。これからもよろしく願い
いたします。(保科 裕)

小学校教員でしたので研究生活とは無縁で
した。しかし、本会に在籍させていただいた
お蔭で、地球科学に興味を持ち続けられたと
思います。感謝しています。(松本仁美)

「永年会員顕彰」のご案内ありがとうございます

います。学術会議法案が国会を通過し、学問
の自由が脅かされる今日ですが、日本地質学
会の益々の発展を祈願します。(足立久男)

地質学会会員50年、顕彰ありがとうございます。
地質コンサルタント会社に就職しより
多くの知識習得を目指して学会に加入しまし
たが、得ることばかりで寄与は少なく恐縮し
ております。これからも若手技術者の育成に
尽力して参りたいと思っています。(加藤芳
郎)

50年会員の顕彰ありがとうございます。地
質学会の一層の発展を願います。(鴈沢好博)
元気に晴耕雨読の生活を楽しんでおりま
す。(公文富士夫)

永年会員の顕彰、有り難うございます。
(前田仁一郎)

最近下仁田ジオパークのお手伝いをして
います。(大久保 進)

ありがとうございます。現在、芝浦工業大
学柏高等学校で講師をさせていただいていま
す。微力ではありますが、地質学の普及そし
て地学教育に貢献させていただいています。
(藤本勝彦)

これからも微力ながら頑張りたいと思いま
す。(会田信行)

一般社団法人日本地質学会2024年度収支決算
(2024年4月1日～2025年3月31日)

科 目	2024年度予算	2024年度決算	差 異
I 事業活動収入の部			
1. 事業活動収入 1)			
1) 基本財産運用収入	500	4,406	-3,906
基本財産利息収入	500	4,406	-3,906
2) 特定資産運用収入	500	3,111	-2,611
特定資産運用収入	500	3,111	-2,611
3) 会費収入 2)	33,970,000	34,569,000	-599,000
正会員会費収入	31,200,000	31,431,000	-231,000
学生会費収入(単年度、バック会費当年分)	1,020,000	1,138,000	-118,000
賛助会員会費収入	1,750,000	2,000,000	-250,000
4) 事業収入	22,684,400	20,936,303	1,748,097
①出版事業収入 3)	4,699,000	5,282,229	-583,229
雑誌販売収入	84,000	84,000	0
雑誌印刷負担金収入	650,000	693,000	-43,000
別刷収入	460,000	564,580	-104,580
広報誌販売収入	50,000	6,450	43,550
編集収入	10,000	13,640	-3,640
リーフレット販売収入	220,000	281,910	-61,910
バックナンバー等売上収入	5,000	25,400	-20,400
その他出版物収入	10,000	439	9,561
広告料収入	350,000	365,000	-15,000
広報誌企画料	660,000	510,000	150,000
アイランドアーク編集費・関連収入	2,000,000	2,362,867	-362,867
雑収入	200,000	374,943	-174,943
②年会開催事業収入 4)	6,350,000	6,311,177	38,823
参加登録費収入	4,500,000	4,250,600	249,400
懇親会参加費収入	750,000	790,000	-40,000
展示収入	900,000	1,096,700	-196,700
雑収入	200,000	173,877	26,123
③普及事業収入 5)	3,750,000	4,622,850	-872,850
普及イベント収入	3,300,000	4,276,950	-976,950
街中ジオ散歩参加費収入	30,000	22,450	7,550
ジョートコース受講料収入	470,000	159,000	311,000
地質系業界説明会出展料収入	500,000	767,500	-267,500
普及企画協賛費収入	2,300,000	3,328,000	-1,028,000
普及資料等販売収入	450,000	345,900	104,100
雑収入	0	0	0
④支部・部会等活動事業収入 6)	1,285,000	725,933	559,067
イベント参加費収入	1,160,000	599,800	560,200
資料等販売収入	15,000	0	15,000
負担金収入	10,000	8,365	1,635
雑収入	100,000	117,768	-17,768
⑤若手育成事業収入 7)	260,000	162,500	97,500
イベント参加費収入	260,000	162,500	97,500

⑥補助金・寄付金等収入 8)	2,240,000	2,409,241	-169,241
出版事業に係る補助金・寄付金収入	50,000	8,241	41,759
年会開催事業に係る補助金・寄付金収入	2,100,000	2,300,000	-200,000
広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入	90,000	90,000	0
その他助成金収入	0	11,000	-11,000
⑦雑収入	200,400	141,648	58,752
受け取りの利息	200	18,029	-17,829
引当金受取利息	200	1,610	-1,410
その他の収入	200,000	122,009	77,991
⑧引当預金取崩し収入 9)	3,900,000	1,280,725	2,619,275
事業準備引当預金取崩し収入	2,000,000	0	2,000,000
年会開催引当預金取崩し収入	700,000	0	700,000
普及書出版引当預金取崩し収入	0	0	0
研究奨励引当預金取崩し収入	0	0	0
若手育成事業引当預金取崩し収入	1,200,000	1,280,725	-80,725
【事業活動収入計】	56,655,400	55,512,820	1,142,580
【前年度繰越金】	27,358,315	27,358,315	0
【収入合計】	84,013,715	82,871,135	1,142,580

科 目	2024年度予算	2024年度決算	差 異
II. 事業活動支出の部			
1) 事業費支出 10)	42,803,400	42,673,568	129,832
①出版事業 11)	22,626,000	21,937,909	688,091
a 給料手当支出	4,000,000	3,968,990	31,010
b 賞与支給支出	1,212,000	1,250,195	-38,195
c 退職掛け金支出	288,000	281,600	6,400
d 法定福利費支出	840,000	829,013	10,987
e 会議費支出	10,000	10,338	-338
f 旅費交通費支出	220,000	366,653	-146,653
通信運搬費支出	3,150,000	2,968,806	181,194
h 消耗什器備品費支出	170,000	262,849	-92,849
i OOA機器・システム等保守管理費	270,000	172,849	97,151
j 消耗品費支出	170,000	112,907	57,093
l 光熱水料費支出	270,000	283,397	-13,397
m 事務所賃借料支出	2,488,000	2,487,864	136
地質学雑誌印刷製本費支出	500,000	217,365	282,635
News誌印刷製本費支出	4,240,000	4,373,759	-133,759
k 広報誌ほか印刷製本費支出	1,200,000	1,166,973	33,027
出版編集費	3,300,000	2,816,814	483,186
諸謝金支出	270,000	349,240	-79,240
n 雑支出	28,000	18,297	9,703
②年会開催事業 12)	11,655,000	13,202,764	-1,547,764
a 給料手当支出	1,000,000	992,245	7,755
b 賞与支給支出	303,000	312,548	-9,548
c 退職掛け金支出	72,000	70,400	1,600
d 法定福利費支出	210,000	207,252	2,748
臨時雇賃金支出	600,000	524,500	75,500
旅費交通費支出	120,000	112,600	7,400
通信運搬費支出	50,000	36,226	13,774
機器賃借料支出	600,000	522,940	77,060

科 目	2024年度予算	2024年度決算	差 異
消耗品費支出	30,000	26,613	3,387
演習登録公開費	1,600,000	1,494,933	105,067
印刷製本費支出	5,000	3,570	1,430
会場賃借料支出	600,000	790,350	-190,350
会場設営・設備費支出	2,850,000	4,555,782	-1,705,782
懇親会実施支出	900,000	855,577	44,423
保険料支出	15,000	14,490	510
委託費支出	2,400,000	2,449,535	-49,535
雑支出	200,000	197,498	2,502
巡検実施支出	100,000	35,705	64,295
③普及事業 13)	4,603,000	4,735,348	-132,348
a 給料手当支出	1,000,000	992,245	7,755
b 賞与支給支出	303,000	312,548	-9,548
c 退職掛け金支出	72,000	70,400	1,600
d 法定福利費支出	210,000	207,252	2,748
e 会議費支出	5,000	5,168	-168
f 旅費交通費支出	60,000	28,237	31,763
g 通信運搬費支出	673,000	704,745	-31,745
h 消耗什器備品費支出	38,000	58,406	-20,406
I OA機器・システム等保守管理費	60,000	38,412	21,588
j 消耗品費支出	100,000	27,764	72,236
k 印刷製本費支出	770,000	988,051	-218,051
臨時雇賃金支出	400,000	548,000	-148,000
会場賃借料支出	11,000	0	11,000
普及イベント実施支出	17,000	122,250	-105,250
広告宣伝費	160,000	110,000	50,000
保険料支出	4,000	6,300	-2,300
諸謝金支出	270,000	100,548	169,452
負担金支出	400,000	382,739	17,261
n 雑支出	50,000	32,283	17,717
④支部・部会等活動事業 14)	1,688,000	975,072	712,928
旅費交通費支出	300,000	85,059	214,941
通信運搬費支出	43,000	38,701	4,299
機器賃借料支出	10,000	0	10,000
消耗品費支出	70,000	3,105	66,895
印刷製本費支出	25,000	48,260	-23,260
臨時雇い賃金	180,000	72,000	108,000
会場賃借料支出	130,000	31,020	98,980
イベント実施支出	600,000	524,595	75,405
保険料支出	10,000	13,000	-3,000
諸謝金支出	150,000	113,440	36,560
負担金支出	70,000	0	70,000
雑支出	100,000	45,892	54,108
⑤若手育成事業支出 15)	1,501,400	1,448,535	52,865
旅費交通費支出	12,000	5,000	7,000
イベント実施費支出	480,000	447,615	32,385
保険料支出	24,000	2,600	21,400
諸謝金支出	20,000	20,000	0
フィールドワーク賞支出	0	0	0
研究奨励金支出	960,000	960,000	0
雑支出	5,400	13,320	-7,920

科 目	2024年度予算	2024年度決算	差 異
⑥研究奨励事業 16)	430,000	373,940	56,060
雑支出	430,000	373,940	56,060
⑦特別事業 17)	300,000	0	300,000
国際交流等事業費	200,000	0	200,000
緊急災害調査事業費	100,000	0	100,000
2)管理費 18)	13,782,000	12,024,650	1,757,350
a 給料手当支出	4,000,000	3,969,008	30,992
b 賞与支給支出	1,212,000	1,250,199	-38,199
c 退職金掛け金支出	288,000	281,600	6,400
d 法定福利費支出	840,000	829,019	10,981
e 会議費支出	35,000	36,188	-1,188
f 旅費交通費支出	160,000	93,260	66,740
g 通信運搬費支出	2,580,000	886,613	1,693,387
h 消耗什器備品費支出	170,000	282,864	-92,864
I OA機器・システム等保守管理費	270,000	205,859	64,141
j 消耗品費支出	210,000	172,402	37,598
k 印刷製本費支出	110,000	143,466	-33,466
l 光熱水料費支出	270,000	283,405	-13,405
m 事務所賃借料支出	2,488,000	2,487,876	124
諸謝金支出	396,000	396,000	0
租税公課支出	13,000	11,250	1,750
負担金支出	320,000	312,506	7,494
n 雑支出	420,000	403,135	16,865
3)法人税等支出	70,000	70,000	0
4)引当預金繰入支出 19)	0	503,111	-503,111
繰入支出	0	503,111	-503,111
【事業活動収支合計】	56,655,400	55,271,329	1,384,071
【事業活動収支差額】	0	241,491	-241,491
次期繰越収支差額	27,358,315	27,599,806	-241,491

<注>2024年度決算

- 1) 個々の科目には増減はあるが、収入全体は前年度より微増。
- 2) 会員数報道(正会員:2023年度末3032名→2024年度末3022名)、収入には過年度分支払も含まれる。一般会員とシニア会員の一部は2023年度から在会年数に応じた減額が適用されている。賛助会員の企業・団体数増(31団体→36団体)。
- 3) 編集出版事業費はやや収入増。オンライン化後も印刷はある程度の発注あり。雑誌販売収入はオンライン版冊子購読料のみ。リーフレット等の売り上げも回復傾向。アイランドアークのロイヤリティはわずかに増額。
- 4) 山形大会も完全対面にて開催。懇親会も実施。大会参加者数は2023年度(京都大会)より減。
- 5) 普及事業は今年度も増収。地質系業界財団会出展参加費、キャリアビジョン誌2024年版の収入により収入増。
- 6) 支部・部会活動は前年度より収入増。回復傾向。
- 7) 若手活動運営委員会主催「若手巡検・研究集会」の参加費。
- 8) 学名名義の出版物による印税、フォトコン協賛金など。会員からの寄付あり。山形コンベンションビュローから230万円の助成金あり(学術大210万、巡検バス支援:20万)。
- 9) 若手育成事業引当金の取り崩しによる補てんのみ。その他は補てん不要とした。
- 10) 支出は前年度と同等。①～③の各事業費の管理費(a～n)は2)管理費支出との割合+各事業固有の費用。
- 11) 出版事業費はおおむね予算内に抑えられている。
- 12) 山形大会実施につき、案分比例の管理費(a～d)を除いた各種費用を支出。会場設営・設備費、会場賃料などが予定より支出増。
- 13) フォトコンシステム・送料、キャリアビジョン誌2024送料、地質情報展のアルバート代、市民講演会の会場賃料など。
- 14) 支部・部会活動は前年度より支出増。回復傾向。
- 15) 若手巡検・研究集会、関東支部巡検、および年次巡検参加費等に関する経費(学会からの補助費も含む)。研究奨励金の支給など。
- 16) 各賞・顕彰に関係する支出のみ。学会表彰制作、メダル研磨、刻印代。
- 17) 海外交流事業の招待する支出のみ。また、災害による出勤費用もなし。
- 18) 個々の科目には増減はあるが、全体としては支出増。「g 通信運搬費支出」はHPリニューアル費用を予算計上したが、リニューアル途中。今期はウェブサイトの新品まで。
- 19) 引当預金繰入支出は退職金引当金→50万円を繰入。その他は定期預金金利子。

収 支 計 算 書

〔 自 2024年 4 月 1 日 日
至 2025年 3 月 31 日 〕

(単位：円)					
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考	
I. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入	500	4,406	△ 3,906		
特定資産運用収入	500	3,111	△ 2,611		
会費収入	33,970,000	34,569,000	△ 599,000		
事業収入					
出版事業収入	4,699,000	5,282,229	△ 583,229		
年会開催事業収入	6,350,000	6,311,177	38,823		
普及事業収入	3,750,000	4,622,850	△ 872,850		
支部・部会等活動事業収入	1,285,000	725,933	559,067		
若手育成事業収入	260,000	162,500	97,500		
事業収入計	16,344,000	17,104,689	△ 760,689		
補助金・寄付金等収入	2,240,000	2,409,241	△ 169,241		
雑収入	200,400	141,648	58,752		
事業活動収入計	52,755,400	54,232,095	△ 1,476,695		
2. 事業活動支出					
事業費支出					
出版事業費	12,660,000	11,892,957	767,043		
年会開催事業費	10,070,000	11,620,319	△ 1,550,319		
普及事業費	2,032,000	2,257,888	△ 225,888		
支部・部会等活動事業費	1,688,000	975,072	712,928		
若手育成事業費	1,501,400	1,448,535	52,865		
研究奨励事業費	430,000	373,940	56,060		
特別事業費	300,000	0	300,000		
事業管理費 ^(注)	14,122,000	14,104,857	17,143		
事業費支出計	42,803,400	42,673,568	129,832		
管理費支出					
人件費	6,340,000	6,329,826	10,174		
旅費交通費	160,000	93,260	66,740		
事務所賃借料	2,488,000	2,487,876	124		
事務諸費	4,374,000	2,710,553	1,663,447		
雑費	420,000	403,135	16,865		
法人税等支出	70,000	70,000	0		
管理費支出計	13,852,000	12,094,650	1,757,350		
事業活動支出計	56,655,400	54,768,218	1,887,182		
事業活動収支差額	△ 3,900,000	△ 536,123	△ 3,363,877		

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
事業準備引当預金取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	
年会開催補助費引当預金取崩収入	700,000	0	700,000	
普及書出版引当預金取崩収入	0	0	0	
研究奨励引当預金取崩収入	0	0	0	
若手育成事業引当預金取崩収入	1,200,000	1,280,725	△ 80,725	
投資活動収入計	3,900,000	1,280,725	2,619,275	
2. 投資活動支出				
退職手当引当預金繰入支出	0	500,138	△ 500,138	
年会開催補助費引当預金繰入支出	0	1,528	△ 1,528	
普及書出版引当預金繰入支出	0	597	△ 597	
周年記念事業準備引当預金繰入支出	0	41	△ 41	
研究奨励引当預金繰入支出	0	179	△ 179	
若手育成事業引当預金繰入支出	0	628	△ 628	
投資活動支出計	0	503,111	△ 503,111	
投資活動収支差額	3,900,000	777,614	3,122,386	
III. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	241,491	△ 241,491	
前期繰越収支差額	27,358,315	27,358,315	0	
次期繰越収支差額	27,358,315	27,599,806	△ 241,491	

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。

計算書類に対する注記（2024年度）

1. 重要な会計方針
公益法人会計基準を採用している。
- 1) 引当金の計上について
 - 事業準備引当金：将来的な事業、前年度未完事業、大規模災害調査・研究などのために引当。
 - 年会開催補助費引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備える引当。
 - 退職手当引当金：期末要支給額のうち、中退共掛け金を考慮した見込み額を引当。
 - * 中退共の掛け金積立額：今期末で8,301,612円(利子含む：2名分)。
 - 普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備える引当。
 - 周年記念事業準備引当金：周年事業のための引当。
 - * 125周年記念事業準備引当金(2018年度にて事業終了)の残額を名称変更。
 - 研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当。
 - 若手育成事業引当金：若手野外地質学者の育成事業のための引当。

2) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである。

(単位円)				
科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
預 金	30,000,000	0	0	30,000,000
合計（基本財産）	30,000,000	0	0	30,000,000

収支計算書に対する注記（2024年度）

1. 資金の範囲について
資金の範囲には現金、預金、仮払金、未収金、前払金、未払金、預り金、仮受金、前受金を含め
期末残高は下記に示すとおりである。
2. 次期繰り越し収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位円)			
科 目	前期末残高	当期末残高	当期増減
現金（切手残高含）	246,548	341,744	952,737
預 金	56,362,444	55,603,143	1,024,135
仮払金	452,118	252,361	1,000,000
未収金	80,000	830,000	26,727,000
前払金	0	276,430	27,753,872
合 計	57,141,110	57,303,678	165,568
未払金	1,220,488	952,737	267,751
預り金	1,136,307	1,024,135	112,172
仮受金	0	1,000,000	1,000,000
前受金	27,426,000	26,727,000	699,000
合 計	29,782,795	29,703,872	78,923
次期繰越収支差額	27,358,315	27,599,806	241,491

(単位：円)		金 額	
科 目			
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金（現金：329,712円、切手12,032円）		341,744	
		(55,603,143)	
三井住友銀行神田駅前支店（普通）1711424		25,273,747	
みずほ銀行神田駅前（普通）2229416		14,309,455	
三菱UFJ銀行神田駅前（普通）0105667		3,777,971	
ゆうちょ銀行板橋口座 00140-8-28067		11,512,528	
ゆうちょ銀行（普通）62073562		729,442	
仮払金（労働保険料2024年度概算払いほか）		252,361	
未収金（キャリアビジョン起稿集読費、フォトコン協賛金、ジオラマ企画協賛費等）		830,000	
前払金（井桁ビル更新料）		276,430	
		57,303,678	
流動資産合計			
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預金（みずほ銀行神田駅前支店（定期）6558120-1,2,5,6）		30,000,000	
基本財産合計		30,000,000	
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金（井桁ビル預け）		2,000,000	
特定資産		(81,875,820)	
事業準備引当預金（みずほ銀行神田駅前支店（定期）6558120-9）		7,600,000	
退職手当引当預金（三菱UFJ銀行神田駅前支店（定期）0022615-6,7,12、一部普通）		8,633,066	
年会開催補助費引当預金（三菱UFJ銀行神田駅前支店（定期）0022615-10,14,18）		7,721,176	
普及書出版引当預金（三菱UFJ銀行神田駅前支店（定期）0022615-3,11,15,16,17）		7,237,448	
周年記念事業準備引当預金（三菱UFJ銀行神田駅前支店（定期）0022615-19）		2,400,164	
研究奨励引当預金		847,813	
若手育成事業引当預金		47,436,153	
（三菱UFJ銀行神田駅前支店（定期）0022615-20,21,22,23,24,25、一部普通）			
その他の固定資産合計		113,875,820	
固定資産合計			
資産合計			171,179,498
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金		952,737	
預り金（社保料3月分、出版物印税著者分配分ほか）		1,024,135	
仮受金（公益財団法人セコム科学技術振興財団からの助成金）		1,000,000	
前受金（2025年1月以降の会費）		26,727,000	
流動負債合計		29,703,872	
2. 固定負債			
引当金		(81,875,820)	
事業準備引当金		7,600,000	
退職手当引当金		8,633,066	
年会開催補助費引当金		7,721,176	
普及書出版引当金		7,237,448	
周年記念事業準備引当金		2,400,164	
研究奨励引当金		847,813	
若手育成事業引当金		47,436,153	
固定負債合計		81,875,820	
負債合計			111,579,692
正味財産			59,599,806

貸 借 対 照 表
2025年3月31日現在

科 目		(単位:円)	
		当年度	前年度
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	341,744	246,548	95,196
預 金	55,603,143	56,362,444 △	759,301
仮 払 金	252,361	452,118 △	199,757
未 収 金	830,000	80,000	750,000
前 払 金	276,430	0	276,430
流動資産合計	57,303,678	57,141,110	162,568
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000	2,000,000	0
特定資産	81,875,820	82,653,434 △	777,614
事業準備引当預金	7,600,000	7,600,000	0
退職手当引当預金	8,633,066	8,132,928	500,138
年会開催補助費引当預金	7,721,176	7,719,648	1,528
普及書出版引当預金	7,237,448	7,236,851	597
周年記念事業準備引当預金	2,400,164	2,400,123	41
研究奨励引当預金	847,813	847,634	179
若手育成事業引当預金	47,436,153	48,716,250 △	1,280,097
その他の固定資産合計	83,875,820	84,653,434 △	777,614
固定資産合計	113,875,820	114,653,434 △	777,614
資産合計	171,179,498	171,794,544 △	615,046
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	952,737	1,220,488 △	267,751
預り金	1,024,135	1,136,307 △	112,172
仮受金	1,000,000	0	1,000,000
前受金	26,727,000	27,426,000 △	699,000
流動負債合計	29,703,872	29,782,795 △	78,923
2. 固定負債			
引当金	7,600,000	7,600,000	0
事業準備引当金	8,633,066	8,132,928	500,138
退職手当引当金	7,721,176	7,719,648	1,528
年会開催補助費引当金	7,237,448	7,236,851	597
普及書出版引当金	2,400,164	2,400,123	41
周年記念事業準備引当金	847,813	847,634	179
研究奨励引当金	47,436,153	48,716,250 △	1,280,097
若手育成事業引当金	81,875,820	82,653,434 △	777,614
固定負債合計	111,579,692	112,436,229 △	856,537
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産	59,599,806	59,358,315	241,491
正味財産合計	59,599,806	59,358,315	241,491
負債及び正味財産合計	171,179,498	171,794,544 △	615,046

正 味 財 産 増 減 計 算 書

(自 2024年 4 月 1 日)
至 2025年 3 月 31 日)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
1. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収入	4,406	510	3,896	
特定資産運用収入	3,111	1,122	1,989	
会費収入	34,569,000	36,546,500	△ 1,977,500	
事業収入				
出版事業収入	5,282,229	5,208,633	73,596	
年会開催事業収入	6,311,177	7,158,801	△ 847,624	
普及事業収入	4,622,850	3,838,178	784,672	
支部・部会等活動事業収入	725,933	651,961	73,972	
若手育成事業収入	162,500	384,000	△ 221,500	
事業収入計	17,104,689	17,241,573	△ 136,884	
補助金・寄付金等収入	2,409,241	221,271	2,187,970	
雑収入	141,648	101,744	39,904	
経常収益計	54,232,095	54,112,720	119,375	
(2) 経常費用				
事業費				
出版事業費	11,892,957	12,226,442	△ 333,485	
年会開催事業費	11,620,319	10,380,399	1,239,920	
普及事業費	2,257,888	2,251,390	6,498	
支部・部会等活動事業費	975,072	831,975	143,097	
若手育成事業費	1,448,535	1,675,459	△ 226,924	
研究奨励事業費	373,940	924,440	△ 550,500	
事業管理費	14,104,857	13,589,377	515,480	
事業費計	42,673,568	41,879,482	794,086	
管理費				
人件費	6,329,826	6,168,468	161,358	
旅費交通費	93,260	91,840	1,420	
事務所賃借料	2,487,876	2,626,091	△ 138,215	
事務諸費	2,710,553	3,166,839	△ 456,286	
雑費	403,135	440,385	△ 37,250	
法人税等支出	70,000	70,000	0	
管理費計	12,094,650	12,563,623	△ 468,973	
経常費用計	54,768,218	54,443,105	325,113	
当期経常増減額	△ 536,123	△ 330,385	△ 205,738	

科	目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
2. 経常外増減の部	(1) 経常外収益				
	研究奨励引当預金取崩収入	0	700,000	△ 700,000	
	若手育成事業引当預金取崩収入	1,280,725	1,284,600	△ 3,875	
	経常外収益計	1,280,725	1,984,600	△ 703,875	
	(2) 経常外費用				
	退職手当引当金繰入額	500,138	138	500,000	
	年会開催補助費引当金繰入額	1,528	132	1,396	
	普及書出版引当金繰入額	597	124	473	
	周年事業準備引当金繰入額	41	41	0	
	研究奨励引当金繰入額	179	262	△ 83	
III. 正味財産増減の部	若手育成事業引当預金繰入額	628	425	203	
	経常外費用計	503,111	1,122	501,989	
	当期経常外増減額	777,614	1,983,478	△ 1,205,864	
	当期一般正味財産増減額	241,491	1,653,093	△ 1,411,602	
	一般正味財産期首残高	59,358,315	57,705,222	1,653,093	
	一般正味財産期末残高	59,599,806	59,358,315	241,491	
	指定正味財産増減の部				
	当期指定正味財産増減額	0	0	0	
	指定正味財産期首残高	0	0	0	
	指定正味財産期末残高	0	0	0	
III. 正味財産増減の部	正味財産期首残高	59,599,806	59,358,315	241,491	
	正味財産期末残高				

監査報告書

一般社団法人日本地質学会
会長 山路 敦 殿

2025 年 5 月 16 日

監事 山本正司
監事 岩部良子

私たち監事は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、役職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその付属書類について検討いたしました。さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその付属明細書について精査いたしました。

2. 監査意見

(1)事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③ 地域による学会活動への参加機会を是正するため、オンライン企画（ショートコース等）を計画的に開催することで、会員満足を向上することを期待します。
- ④ 当学会の更なる業務効率化及び適正化を図るとともに、会員減少防止のため、シニア会員や学生会員がインセンティブ・モチベーションを持って活動することができ、る環境を整備していただきたい。

(2)計算書類及びその付属明細書監査結果

計算書類及びその付属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

一般社団法人日本地質学会2025年度収支予算案
(2025年4月1日～2026年3月31日)

科 目	2024年度予算	2025年度予算	前年度予算との増減
I. 事業活動収入の部			
1. 事業活動収入			
1) 基本財産運用収入	500	4,000	3,500
基本財産利息収入	500	4,000	3,500
2) 特定資産運用収入	500	3,000	2,500
特定資産運用収入	500	3,000	2,500
3) 会費収入 1)	33,970,000	34,571,000	601,000
正会員一般・シニア会費収入	31,200,000	31,200,000	0
正会員学生会費収入(前年度、バック会費当年分)	1,020,000	1,271,000	251,000
賛助会員会費収入	1,750,000	2,100,000	350,000
4) 事業収入	22,684,400	28,719,500	6,035,100
①出版事業収入 2)	4,699,000	5,415,000	716,000
雑誌販売収入	84,000	60,000	-24,000
雑誌印刷負担金収入	650,000	700,000	50,000
別刷収入	460,000	570,000	110,000
広報紙販売収入	50,000	20,000	-30,000
論集収入	10,000	10,000	0
リーフレット販売収入	220,000	280,000	60,000
バックナンバー等売上収入	5,000	10,000	5,000
その他出版物収入	10,000	10,000	0
広告料収入	350,000	370,000	20,000
広報紙企画料	660,000	510,000	-150,000
アイランドアーク編集費・関連収入	2,000,000	2,500,000	500,000
雑収入	200,000	375,000	175,000
②年会開催事業収入 3)	6,350,000	7,550,000	1,200,000
参加登録費収入	4,500,000	5,400,000	900,000
懇親会参加費収入	750,000	800,000	50,000
展示収入	900,000	1,150,000	250,000
雑収入	200,000	200,000	0
③普及事業収入	3,750,000	4,760,000	1,010,000
普及イベント収入	3,300,000	4,460,000	1,160,000
街中ジオ散歩参加費収入	30,000	30,000	0
シナリオコース受講料収入	470,000	470,000	0
地質系業界説明会出席料収入	500,000	600,000	100,000
普及企画協賛費収入	2,300,000	3,360,000	1,060,000
普及資料等販売収入	450,000	300,000	-150,000
雑収入	0	0	0
④支部・部会等活動事業収入 4)	1,285,000	993,000	-292,000
イベント参加費収入	1,160,000	853,000	-307,000
資料等販売収入	15,000	10,000	-5,000
負担金収入	10,000	10,000	0
雑収入	100,000	120,000	20,000
⑤若手育成事業収入 5)	260,000	160,000	-100,000
イベント参加費収入	260,000	160,000	-100,000
⑥補助金・寄付金等収入 6)	2,240,000	1,400,000	-840,000
出版事業に係る補助金・寄付金収入	50,000	10,000	-40,000
年会開催事業に係る補助金・寄付金収入	2,100,000	300,000	-1,800,000
広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入	90,000	1,090,000	1,000,000
その他助成金収入	0	0	0
⑦雑収入	200,400	141,500	-58,900
受け取り利息	200	10,000	9,800
引当金受取利息	200	1,500	1,300
その他の収入	200,000	130,000	-70,000

科 目	2024年度予算	2025年度予算	前年度予算との増減
③引当預金取崩し収入 7)			
事業準備引当預金取崩し収入	3,900,000	8,300,000	4,400,000
年会開催引当預金取崩し収入	2,000,000	3,000,000	1,000,000
普及書出版引当預金取崩し収入	700,000	2,000,000	1,300,000
研究奨励引当預金取崩し収入	0	2,000,000	2,000,000
若手育成事業引当預金取崩し収入	0	0	0
【事業活動収入計】	1,200,000	1,300,000	100,000
【前年度繰越金】	56,655,400	63,297,500	6,642,100
【収入合計】	27,358,315	27,599,806	241,491
	84,013,715	90,897,306	6,883,591

科 目	2024年度予算	2025年度予算	前年度予算との増減
II. 事業活動支出の部			
1. 事業費支出 8)			
①出版事業 9)	42,803,400	48,764,300	5,960,900
給料手当支出	22,626,000	23,779,000	1,153,000
a 給料手当支出	4,000,000	4,000,000	0
b 賞与支給支出	1,212,000	1,280,000	68,000
c 退職掛け金支出	288,000	288,000	0
d 法定福利費支出	840,000	835,000	-5,000
e 会議費支出	10,000	10,000	0
f 旅費交通費支出	220,000	370,000	150,000
通信運搬費支出	3,150,000	3,300,000	150,000
h 消耗什器備品費支出	170,000	248,000	78,000
i O/A機器・システム等保守管理費	270,000	180,000	-90,000
j 消耗品費支出	170,000	162,000	-8,000
l 光熱水料費支出	270,000	285,000	15,000
m 事務所賃借料支出	2,488,000	2,626,000	138,000
地質学雑誌印刷製本費支出	500,000	220,000	-280,000
News誌印刷製本費支出	4,240,000	4,400,000	160,000
k 広報誌ほか印刷製本費支出	1,200,000	1,200,000	0
出版編集費	3,300,000	4,000,000	700,000
諸謝金支出	270,000	350,000	80,000
n 雑支出	28,000	25,000	-3,000
②年会開催事業 10)	11,655,000	12,782,000	1,127,000
a 給料手当支出	1,000,000	1,000,000	0
b 賞与支給支出	303,000	320,000	17,000
c 退職掛け金支出	72,000	72,000	0
d 法定福利費支出	210,000	210,000	0
臨時雇賃金支出	600,000	600,000	0
旅費交通費支出	120,000	180,000	60,000
通信運搬費支出	50,000	50,000	0
機器賃借料支出	600,000	1,300,000	700,000
消耗品費支出	30,000	30,000	0
演題登録公開費	1,600,000	1,500,000	-100,000
印刷製本費支出	5,000	5,000	0
会場賃借料支出	600,000	2,100,000	1,500,000
会場設備・設備費支出	2,850,000	3,200,000	350,000
懇親会実施支出	900,000	800,000	-100,000
保険料支出	15,000	15,000	0
委託費支出	2,400,000	1,100,000	-1,300,000
雑支出	200,000	200,000	0
巡修実施支出	100,000	100,000	0

科 目	2024年度予算	2025年予算案	前年度予算との増減
③普及事業 11)	4,603,000	8,462,000	3,859,000
a 給料手当支出	1,000,000	1,000,000	0
b 賞与支給支出	303,000	320,000	17,000
c 退職掛け金支出	72,000	72,000	0
d 法定福利費支出	210,000	210,000	0
e 会議費支出	5,000	5,000	0
f 旅費交通費支出	60,000	50,000	-10,000
g 通信運搬費支出	673,000	910,000	237,000
h 消耗什器備品費支出	38,000	55,000	17,000
i OA機器・システム等保守管理費	60,000	39,000	-21,000
j 消耗品費支出	100,000	41,000	-59,000
k 印刷製本費支出	770,000	3,710,000	2,940,000
臨時雇賃金支出	400,000	600,000	200,000
会場賃借料支出	11,000	560,000	549,000
普及イベント実施支出	17,000	140,000	123,000
広告宣伝費	160,000	160,000	0
保険料支出	4,000	6,000	2,000
諸謝金支出	270,000	150,000	-120,000
負担金支出	400,000	400,000	0
n 雑支出	50,000	34,000	-16,000
④支部・都会等活動事業 12)	1,688,000	1,499,300	-188,700
旅費交通費支出	300,000	300,000	0
通信運搬費支出	43,000	43,000	0
機器賃借料支出	10,000	10,000	0
消耗品費支出	70,000	4,000	-66,000
印刷製本費支出	25,000	32,000	7,000
臨時雇い賃金	180,000	140,000	-40,000
会場賃借料支出	130,000	150,000	20,000
イベント実施支出	600,000	550,000	-50,000
保険料支出	10,000	23,000	13,000
諸謝金支出	150,000	147,300	-2,700
負担金支出	70,000	40,000	-30,000
雑支出	100,000	60,000	-40,000
⑤若手育成事業支出 13)	1,501,400	1,442,000	-59,400
旅費交通費支出	12,000	5,000	-7,000
イベント実施費支出	480,000	500,000	20,000
保険料支出	24,000	3,000	-21,000
諸謝金支出	20,000	20,000	0
フィールドワーク費支出	0	100,000	100,000
研究奨励金支出	960,000	800,000	-160,000
雑支出	5,400	14,000	8,600
⑥研究奨励事業 14)	430,000	500,000	70,000
雑支出	430,000	500,000	70,000
⑦特別事業 15)	300,000	300,000	0
国際交流等事業費	200,000	200,000	0
緊急災害調査事業費	100,000	100,000	0
2) 管理費 16)	13,782,000	13,963,200	181,200
a 給料手当支出	4,000,000	4,000,000	0
b 賞与支給支出	1,212,000	1,280,000	68,000
c 退職金掛け金支出	288,000	288,000	0
d 法定福利費支出	840,000	835,000	-5,000
e 会議費支出	35,000	35,000	0
f 旅費交通費支出	160,000	160,000	0
g 通信運搬費支出	2,580,000	2,500,000	-80,000

科 目	2024年度予算	2025年予算案	前年度予算との増減
h 消耗什器備品費支出	170,000	248,000	78,000
i OA機器・システム等保守管理費	270,000	180,000	-90,000
j 消耗品費支出	210,000	290,000	80,000
k 印刷製本費支出	110,000	120,000	10,000
l 光熱水料費支出	270,000	285,000	15,000
m 事務所賃借料支出	2,488,000	2,626,000	138,000
n 諸謝金支出	396,000	396,000	0
租税公課支出	13,000	200	-12,800
負担金支出	320,000	310,000	-10,000
雑支出	420,000	410,000	-10,000
3) 法人総務支出	70,000	70,000	0
4) 引当預金繰入支出 17)	0	500,000	500,000
繰入支出	0	500,000	500,000
【事業活動収支差額】	56,655,400	63,297,500	6,642,100
次期繰越収支差額	27,358,315	27,599,806	241,491

<注>2025年度予算案

- 1) 会員数は前年度2023年度末会員数と2024年度末会員数と比較、過去3年分の会費も含む。正会員会費は在会年数に応じた減額措置による収入減も考慮し計上。
- 2) 雑誌等の購読はオンライン化後も著者負担金(掲載超過ページ代、改版代)や別刷り注文は収入あり。
- 3) 年会は口頭・ポスターともに完全対面にて開催。参加費の値上げを想定。参加者数は前年実績にて予想。ほか、企業展示の収入。
- 4) 各支部、都会からの予算案を計上。
- 5) 若手育成事業費収入は若手の会主の会主への巡検参加費を計上。
- 6) 熊本コンベンションセンターからの助成金(30万)を想定。セコム財団からの助成金(100万)は確定。ほか、学協会名義による出版物印刷の寄付収入、フットコン機賃金など。
- 7) 目的に応じた引当準備金の取崩しを予定。
- 8) ①～③の各事業費の管理費(a～d)は、②管理費支出【】との案分比例+各事業固有の費用。
- 9) 『通信運搬費』は4月からのNews誌等の送料値上げを想定。『地質学雑誌印刷費』は、雑誌別刷、オンデマンド冊子注文分を計上。『出版編集費』は、地質学雑誌デジタルアーカイブ化事業の経費(古い雑誌のPDFをテキスト化する費用、110数万円)を計上した。
- 10) 年会支出のうち、案分比例の管理費(a～d)を除き、今期収支は相殺予算としない。
- 11) 普及事業はショートコースを最低2回開催の予定で計上。フィールドノートの増刷を予定しているが、印刷製本費が大幅に値上げなどを見通し。セコム財団の助成金は地質情報館と市民講演会の経費に使用する予定で計上。科研費も採択された(120万)。
- 12) 各支部、都会からの予算案を計上。
- 13) 若手活動運営委員会主催、日帰り巡検「若手地質巡検2025」の経費、年会巡検、支部巡検の学生会員参加費補助など。
- 14) 各賞メダル研鑽にかかる経費、都道府県賞者の報酬を想定。
- 15) 国際交流費による交流学会との往來が相殺するとも想定し念のため計上。
- 16) 管理費のうち『通信費』はホームページ・リニューアル費用を計上(テストサイトまでは納品あり、今期中に公開予定)。また、郵送費の値上げ、サーバー利用料などの通信にかかる各費用の値上げを想定し増額。
- 17) 退職引当金へ50万円の積立を予定。

日本地質学会編
『大地と人の物語』
出版記念

10%
OFF

日本地質学会
会員限定

特別販売 キャンペーン



新刊『大地と人の物語』をはじめ、創元社HP内の商品を
全品1割引にて販売いたします！
ご注文時に下記のクーポンコードを入力してください。

クーポンコード

chishitsugakkai2025

クーポン使用期限

2025年7月10日～2025年8月25日

※本クーポンはおひとり様1回限りご利用いただけます

クーポン特典

創元社商品全品 **1** 割引



2025年6月
刊行

↓↓↓ 創元社ホームページはこちら ↓↓↓

<https://www.sogensha.co.jp/>

※創元社HP会員に登録しなくてもご購入いただけます
※詳しくは創元社HP内「ご利用ガイド」をご覧ください

HP会員に登録
するとさらに
特典がたくさん！



大地と人の物語 地質学でよみとく日本の伝承

日本地質学会編

A5判・並製・168頁 定価2,860円(税込)

大地にまつわる神話や伝説を地質学の観点で考察し
地球科学のおもしろさと人々の想像力の豊かさを味
わう、文化×地質学の入門書！

「地球神話」への
いざない



図書出版
創元社

<https://www.sogensha.co.jp/>

〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010 / FAX 06-6233-3111

入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。
入会には正会員1名の紹介が必要です。近くに紹介者となるべき会員がない場合は旨お申し出ください。また、初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費の入金を確認した上でを行い、News誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書郵送先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会
会費送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行 ○ー九(ゼロイチキョク)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会 シヤニホシツガツカイ
会費年額: 正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円 ※1
正会員(学生会員) 5,000円/年、2年パック会費額: 8000円、3年パック会費額: 9000円) ※2
ジュニア会員 0円(年会費不要) ※3

※1: シニア会員は、入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)。
※2: 学生会員は、次の2点を守って手続して下さい。①学生証の写しを提出すること。②バック制会費を希望の場合は一括納入すること。
※3: ジュニア会員は、正会員の権利は有しません。学術大会での発表はジュニアセッションに限定します。

*会員番号	* "学記記入欄" : Official use only			
	*会員種別	☐ 正会員	☐ 一般	☐ シニア ☐ 学生
		☐ ジュニア会員		

一般社団法人日本地質学会入会申込書

Application form for the Geological Society of Japan

本枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな)	Name in Japanese	ローマ字表記	family name	first name
____年Year	____月Mo	____日Day	生born on	Sex: ☐ 男Male ☐ 女Female Country: _____
学歴 Academic career:				
____学校 High school	____年卒業	Year completed		
____大学 University	____学部 Faculty	____年卒業 (見込み) Year completed		
修士 Master: _____	大学Univ. _____	研究科Fac. _____	____年修了 (見込み) Year completed	
博士 Master: _____	大学Univ. _____	研究科Fac. _____	____年修了 (見込み) Year completed	
※学生証の写し忘れずに添えて下さい。				
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code	____ - ____)			

電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code _____)	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____
e-mail Address: _____ @ _____	
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用。その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません。ご注意ください。 ※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。	
連絡先 Correspondence: ☐ 自宅 Home ☐ 所属機関 Office	

*受付(	年	月	日)	*承認(	年	月	日)	*入金(	年	月	日)	振替・現金・銀行・他	*送本(	巻	号)
------	---	---	----	------	---	---	----	------	---	---	----	------------	------	---	----

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。

『学生会員』入会希望者

学生証の写しをここへ貼付

会員情報について: 在会者に限定し、Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承認いただいたものとします)。

☐ 最終学歴 ☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「株式会社〇〇〇〇」までを必須項目として掲載)	☐ 所属先住所 ☐ 所属先電話・FAX番号 ☐ 自宅住所 ☐ 自宅電話・FAX番号 ☐ e-mail Address
紹介者名(正会員)	印
Recommended by (name of member)	Signature

希望する会費額を選択して下さい。バック制会費選択者は、該当するバック制会費額を一括納入して下さい。
☐ 5,000円(初年度のみ) / ☐ 2年パック: 8,000円(初年度・次年度) / ☐ 3年パック: 9,000円(初年度・次年度・次次年度)
☐ 学生会員として入会希望です。学生証の写しを入会申込書に添えて提出します。

専門部会の選択(任意)
現在、下記の14の専門部会が活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

- | | | | | | | | |
|---------|----------|---------|-----------|-----------|----------|-------|---------|
| 1. 地域地質 | 2. 層序 | 3. 堆積地質 | 4. 海洋地質 | 5. 構造地質 | 6. 岩石 | 7. 火山 | 8. 応用地質 |
| 9. 環境地質 | 10. 情報地質 | 11. 古生物 | 12. 第四紀地質 | 13. 環境変動史 | 14. 鉱物資源 | | |

興味専門分野の選択(任意) あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

- | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|
| 1. 層位 | 2. 堆積・堆積岩 | 3. 古生物 | 4. 構造地質 | 5. 火山・火山岩 | 6. 深成岩 | 7. 変成岩 |
| 8. 鉱床地質(金属・非金属) | 9. 鉱床 | 10. 鉱物 | 11. 燃料地質 | 12. 地熱 | 13. 第四紀 | 14. 環境地質 |
| 15. 都市地質 | 16. 土木地質 | 17. 土質工学 | 18. 水文地質 | 19. 探査地質 | 20. 土木工学 | 21. 情報地質 |
| 22. 地震地質 | 23. 海洋地質 | 24. 地球物理 | 25. 地球化学 | 26. 地質年代学 | 27. 地理 | 28. 地学教育 |
| 29. 考古学 | 30. その他 | 40. 地球惑星 | | | | |

(金融機関用)

令和 年 月 日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書(収加)

私は、三井住友カード株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から
預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	三井住友カード株式会社 (旧SMBCファイナンスサービス)	振替日 (払込日)	6日・23日(金融機関休業日の場合は翌営業日)
(フリガナ) 申込人名	申込人住所		〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行	金融機関コード	支店コード	預金種目 (どちらかに○印)	口座番号 (右詰めでご記入ください。)
	銀行組合	本店支店	1. 普通 2. 当座	
	(フリガナ) 口座名義人	金融機関 お届け印		

法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。

お届け印(捺印)
ゆうちょ銀行を除く金融機関へのお届け印ですか
ご注意ください!

ゆうちょ銀行	(フリガナ) 口座名義人	ゆうちょ銀行 お届け印	
	種目コード	契約種別コード	記号(6桁目がある場合は※欄にご記入下さい)
	166301	0	※

払込先口座番号 00110-5-58830 払込先加入者名 三井住友カード株式会社

(収納企業使用欄)

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード	顧客コード	
	18476000	000000	

一預金口座振替規定一 ※ゆうちょ銀行払いは除く。

- 銀行(金庫・組合)に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
- 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む)をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却していただきたくありません。
- この契約を解約するときは、私から銀行(金庫・組合)に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行(金庫・組合)はこの契約が終了したものと取扱いさせていただきます。
- この預金口座振替についてかたに紛議が生じても、銀行(金庫・組合)の責めによる場合を除き、銀行(金庫・組合)には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

(金融機関へお願い)

この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に「印」をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

書類の流れ お客様→収納企業→三井住友カード株式会社→金融機関

金融機関使用欄	(不備返却事由)			
	1. 預金(貯金)取引なし 3. 印鑑相違 2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義 4. その他()			
	備考			
	検印	印鑑照合	受付印	

不備返却先
三井住友カード株式会社
Sライン口座振替係
〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江3-6-11

裏面のりしろ①

101-0032

切手
貼付

一般社団法人日本地質学会
二丁目八一五 井桁ビル内
東京都千代田区岩本町

裏面のりしろ③

氏名
住所

のりしろ①

のりしろ③

裏面のりしろ②

のりしろ②

トリ線

トリ線

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日 日本地質学会総会制定

2009 年 12 月 5 日 一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

地質情報展 2025 くまもと

火の国・水の国!

大地のふしぎ

2025 9/13~15 土 祝

楽しく地球を学べる3日間!

時間

13日 13:00~17:00

14日 9:30~17:00

15日 9:30~16:00

※最終入場は終了時刻の30分前

入場無料

Webをチェック→



会場

熊本城ホール(1階 展示ホールA)

市電:辛島町電停より徒歩2分 近隣に駐車場(有料)あり

展示

熊本の地質や地下水・資源、
地震・活断層・火山・斜面災害などのパネルと解説

実験・
体験



化石レプリカづくり



石割り体験



火山噴火実験 ほか



9/13(土)・14(日)

研究者による
熊本城、火山、活断層、地下水のお話

1階 展示ホールA 14:00~16:00 事前申込不要

日本地質学会
市民講演会

9/15(祝)

九州の恐竜のお話

3階 大会議室A1 14:00~16:00 事前申込不要

お問い合わせ
事務局

TEL : 029-861-3540 (平日昼のみ)
Email : M-ohoten2025-ml@aist.go.jp
URL : <https://www.gs.jp/event/ohoten/>

「地質情報展2025くまもと」は、JSPS科研費(課題番号25HP0007)及びセコム科学技術振興財団(助成番号:RO61215)の助成を受けたものです。

写真:阿蘇市